

第39回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

君はいま創造のとりこに



'89.7.27
28

第39回全道造形教育研究大会
—帯広・十勝大会—

北海道造形教育連盟研究主題

子どもの個性的表現を援ける造形教育の充実

—帯広・十勝大会研究主題—

君はいま創造のとりこに

目 次

大会開催要項	3	
開会式次第	4	
大会シンボルマーク	5	
挨拶	北海道造形教育連盟委員長	金井秀男	6
	帯広・十勝大会運営委員長	寺本吉明	7
祝辞	北海道教育庁十勝教育局長	池淵修	8
	帯広市長	田本憲吾	9
	帯広市教育委員会教育長	小林豊	10
会場校紹介	12	
会場案内	15	
北海道造形教育連盟研究主題	16	
帯広・十勝大会研究主題	20	
公開授業一覧	27	
学習指導案集	28~38	
分科会構成一覧	39	
分科会提言集	40~67	
実技研修一覧	69	
研修内容	70~77	
管内実践紹介	79~82	
資料			
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題	84	
平成元年度・北海道造形教育連盟名簿	85	
地区委員名簿	86	
第39回全道造形教育研究大会帯広・十勝大会役員名簿	87	
会場校関係役員名簿	89	
北海道造形教育連盟規約	90	

-----「帯広・十勝大会」 滋養・広告-----

表紙題文字 / 太田道次 表紙レイアウト / 奥野淳一
 スケッチ協力 / 富久尾 豊, 武石 太, 宮沢克忠, 中西克昭, 中村俊昭
 小室 史, 霜村英靖, 神 史明



4年2組 立崎秀和
建 物 (郵便局)



第39回全道造形教育研究大会

帯広・十勝大会開催要項



1. 大会主題 子どもの個性的表現を援ける造形教育の充実

君はいま創造のとりこに……

2. 期 日 1989年7月27日(木)・28日(金)

3. 日 程 第1日目 7月27日(木)

8:30	9:20	10:10	10:40	11:10	11:50	13:00	15:00	17:00	20:00
受付	公開 授業	歓迎レセ プション	開会式	オリエンテ ーション	昼食 (VTR放送)	分科会	移動	歓迎レセプション 油田町まさばの家	

- 第2日目 7月28日(金)

8:30	9:00	11:20	11:50
受付	実技研修	閉会式	

- ・オリエンテーション ①全道造形教育連盟研究部
②帯広・十勝大会研究部
・関連催事 帯広・十勝児童生徒作品展
全国・全道児童生徒作品展

4. 会 場 帯広市立大空小学校
080 帯広市大空町3丁目1番地
☎ 0155-48-8388

5. 主 催 北海道造形教育連盟

- ・後 援 北海道教育委員会、帯広市教育委員会、十勝教育委員連絡協議会、帯広市教育研究会
十勝管内サークル協議会、帯広市小中連合校長会、十勝小中学校長会、北海道高等学校
校長協会十勝支部、帯広市連合PTA
- ・主 幹 帯広市教育研究会園工・美術部会、十勝管内造形サークル、北海道私立幼稚園十勝支
部、帯広幼稚園協会、帯広市児童家庭課

開 会 式 次 第

	司会 北海道造形教育連盟事務局長	佐々木 理 温
1. 開式のことば	帯広・十勝大会副委員長	横 田 裕 美
2. 挨拶	北海道造形教育連盟委員長	金 井 秀 男
	帯広・十勝大会運営委員長	寺 本 吉 明
3. 祝 辞	十 勝 教 育 局 長	池 淵 修
	帯 広 市 長	田 本 憲 吾
	帯広市教育委員会教育長	小 林 豊
4. 来賓・講師紹介	帯広・十勝大会事務局長	成 瀬 登
5. オリエンテーション	北海道造形教育連盟研究部長	富 田 泰
	帯広・十勝大会研究部長	本 間 義 視
6. 閉式のことば	帯広・十勝大会副運営委員長	宮 沢 克 忠
(連絡)		

閉 会 式 次 第

	司会 帯広・十勝大会事務局長	成 瀬 登
1. 開式のことば	帯広・十勝大会副運営委員長	横 田 裕 美
2. 挨拶	北海道造形教育連盟委員長	金 井 秀 男
	帯広・十勝大会運営委員長	寺 本 吉 明
3. 連盟旗引き継ぎ		
・次期開催地代表挨拶	苫 小 牧 市	
4. 閉式のことば	帯広・十勝大会副運営委員長	宮 沢 克 忠

大会シンボルマーク



帯広第四中学校：奥野淳一

作者のひとこと

「ぼく、こんな素朴な絵が描けたよ。」「これ、ぼくの作品なんです。」

「さあ、これでぼくは、何をつくろうかなあ。」

そんな、造形活動の様子をシンボル化してみたかったのです。

このマークに結集して、十勝・帯広そして、全道の子どもたちの造形活動に、新しい夢と喜びを、そして、力を与えてやろうではありませんか。



学ぶ力、生きる力

北海道造形教育連盟

委員長 金井秀男

蒼く澄み渡る十勝の空を追いかけて、緑の大地が押しよせてきます。さわやかな風が私の体をつつむ時、かつて、依田勉三を中心として集いあった皖成社の人々の声がきこえてきます。足裏より堅忍不拔の開拓の魂が伝わってきます。

この地に第39回の全道大会が開かれることを、深く感謝します。

いま、日本の教育は大きく変わろうとしています。それは、教師の中に子どもがいる教育から、子どもの中にこそ教師がいる教育へ変革し始めています。

教師が一定のことを教えることはやさしいことです。しかし、子どもたちが「確かなもの」を捉えることができるように学ばせることは、それにくらべればはるかに困難な仕事であります。さらにまた、子ども自身が自分の世界を拓いていくことのできる新しい「発見」のある学びは大変な知恵を必要とする仕事です。いうまでもなく教師が教えるために子どもがいるのではなく、子どもが「確かなもの」「発見のあるもの」を学ぶためにこそ、教師がいるのであります。子どもが生きるためにこそ学ぶ、そのために教師がいるのであります。

ここに、造形教育連盟の研究主題「子どもの個性的表現を援ける造形教育の充実」の根本があるのです。次の世代を生き抜いていく子どもたちの魂の中に、教師はなんの仕事があるのか、子どもが「確かなもの」「発見のあるもの」を追求していくことを通して、自分を新たにし、高めていくために、いまなにが求められているかを語り合っていたきたいのです。

学びあいながら学ぶためにふさわしい意味のある課題とその追求とそれに適した手だてと方法を教師自身が自ら発見しなければならないことを自覚する時が、いまです。

こうしたことを学校教育は、どれほど開拓してきたでありますでしょうか。私たちの目の前には、まだほとんど着手されていない大きくて重たい課題が山積しています。このことをかみしめ、のり越えてこそ、本大会地の主題「君は、いま創造のとりこに」に出会うのであります。

教育は理想という夢を、現実の中からひきだす事実をもって実現していく営みです。この十勝をさきひらいた先人の生き方への態度と同じであります。

ここに、帯広・十勝大会が子どもたちに生きるよろこび、学ぶよろこびに近づく研究の集いであることを期待して、これまで大会開催にご尽力くださったみなさんに、深く感謝し挨拶とします。



敏 迎 の ご あ い さ つ

帯広・十勝大会運営委員長 寺 本 吉 明

平成元年度第39回全道造形教育研究大会を道東の帯広市で開催するに当りまして、はるばる全道各地及び地元十勝管内より御参加下さいました皆様方に心から感謝し御歓迎申し上げます。

当帯広市での大会は、1972年第22回大会「未来に生きる子どもの造形教育。(生活に根ざした造形表現をどう高めるか)」を主題として開催以来17年振りでありまして、大会の運営は初めての経験といってもよい私たちですが、連盟本部の役員の方々をはじめ、十勝教育局、帯広市教育委員会や各関係団体の御指導と御援助を賜わり、本日を迎えることができましたことに対しまして、心から感謝し御礼を申し上げます。

十勝は、「十勝晴れ」といわれますように、すきとおる青空と十勝平野に広がるもゆるような緑が美しく、十勝野の中央に位置する帯広市で研究大会を開催致します。帯広市は、十勝の豊かな農業を基盤に発展し続け、大型店の進出も目ざましい商業の街であります。また、田園都市を標榜して久しく、「帯広の森」はロマンに溢れる街をめざし、去る1月にはスケート国体のメイン会場として広く全国に紹介されたところで、さらに、平成元年度から着工予定で道立美術館ができる緑が丘公園一帯は、文化の街・芸術の街の顔でもあります。このような恵まれた環境にあって、学校教育・社会教育の一層の充実のために情熱が傾注されつつあるところであります。

さて、第39回大会は、「子どもの個性的表現を援ける造形教育の充実」北海道造形教育連盟研究主題を受けて、「君はいま創造のとりこに」をテーマに設定し、帯広・十勝の図工美術関係者が一丸となって、短期間でありましたが研究を進めてまいりました。大方の御批判を戴ければ幸いと存じます。今次教育課程の改善により「個性を伸ばし豊かな心を育てる」ことを重視しながら、改善のねらい等も受けて図工美術の教育目標が新指導要領に明示されているわけですが、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることであり、本教科の指導の中で表現製作の喜びをいっそう深く味わせ、個性を伸ばし豊かな心を育てるものであると理解されます。特に今大会では、自分でやる子どもが主体であり、考え工夫させる事、自分も手も一体となって新しい物を作りあげる。想像力を働かせ手を充分に働かせる立体表現、工作的デザイン等生活に生かす研究の展開を志向してあります。本日参加下さいました全道の仲間と共にこの大会の研究交流の場として問題解決に当り、北海道の造形教育をより一層高かめ、より深めていくための二日間であることを期待しまして歓迎の挨拶とします。



ご あ い さ つ

北海道教育庁十勝教育局長 池 淵 修

このたび第39回全道造形教育研究大会が、全道各地より多数の先生方をお迎えし、十勝野の中央に位置する帯広市において盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、北海道造形教育連盟が創立以来40年の歴史と確固たる実践を基盤とし、常に先進的な研究を積み重ね、北海道の造形教育の充実、振興に大きく貢献されておりますことに対し、深く敬意を表するものであります。

さて、21世紀まで残すところ10余年となった今日、我が国が新しい世紀を展望し、社会の変化や成熟化に対応しながら、創造的で活力あふれる社会として発展していくためには、生涯学習の観点に立った教育の一層の振興を図ることが重要であります。

このような中で、学校教育におきましては、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童生徒の育成を目指して、地域の自然や文化を活用し、特色ある教育活動を推進していくことが必要であります。

特に、幼稚園、学校におきましては、子供一人一人を大切にしながら、様々な体験的活動を重視して、人間が生きていく上で必要な基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、豊かな心の醸成や創造力の育成に努めることが大切であると考えます。

子供たちの心に潤いをもたらす、豊かな人間性を育くむことをねらいとしている造形教育におきましては、子供たち一人一人が自ら進んで造形活動に取り組み、自分の頭で考え、手を十分に動かして作品を作りだす喜びを味わわせることや自分や友達が作りだした作品を大切にすることを通して、豊かな表現力や感動する心、創造の喜びを求め続ける態度を育てることが一層、重視されるものと考えます。このことから、指導に直接携わる諸先生方に対する期待は、極めて大きいものがあります。

このように、豊かな心と感性を育てる教育が強く求められている時、全道各地で活躍されております幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方が一堂に会し、「君はいま創造のとりこに……」を大会テーマとし、子供と先生方が一体となって創造の喜びを追求していく造形活動を目指して、実践交流を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、今大会の成果が広く全道の造形教育の充実・発展に寄与されますよう、大きな期待を寄せるものであります。

おわりに、本研究大会の成功を祈念申し上げますとともに、大会開催に当たり御尽力いただきました関係の方々の御労苦に敬意と感謝を申し上げます、ごあいさつといたします。



大会を祝して

帯広市長 田本 憲 吾

第30回全道造形教育研究大会が道内各地から造形教育に高い関心を持っておられる多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、16万帯広市民を代表して心から歓迎申し上げます。

また、日頃から造形教育に力を尽くされ、研鑽を積まれておられる皆様方に対し、心から敬意を表する次第であります。

本市は、明治16年に開拓の銀が入られてから2世紀を歩み始めております。

日高・大雪連峰を遥かに望み、十勝川、札内川など清澄で豊富な水に恵まれ、広大な十勝平野のほぼ中央に位置した十勝の中核都市、北海道の内陸拠点都市として発展を続けております。

十勝は、日本の食糧供給基地として25万ヘクタールの広大な農地を有し、毎年2千億円を超える農畜産物が生産され、食品加工など農業関連産業が数多く立地しており、帯広はその母都市として「緑ひろがる北のフロンティア都市おびひろ」を都市像に掲げ、都市と田園が共生するまちづくりをすすめています。

高齢化、高度情報化、国際化時代の到来を迎えた今日、社会の新しい流れに対応できる人材の育成と環境整備をすすめながら、航空宇宙産業基地構想、テレトピア、地域INS等の広域的なプロジェクトへの積極的な取り組みを図っているところであります。

こうした恵まれた環境のもとで、21世紀を担う子どもたちがこの地にしっかりと根をおろし、社会変換の波を乗り越えて明るくたくましく創造性豊かに生きていくことを願っております。

そのためには、これからの学校教育では、どのような変化に対しても柔軟かつ主体的に対応できる個性的・創造的な子どもを育てることと、これらを支える健全な心身を育むことが大切であると思っております。

本研究大会が、「君はいま 創造のとりこに」の主題のもとに、造形教育の今日的課題を、ご参集の先生方の貴重な実践を通して研究協議されますことは誠に時宜を得たものであり、教育条件の総合的整備と教育内容・方法の充実をめざしている本市の教育にとりましても、大へん意義深いものと考えております。また、本大会が、造形教育の重要性の一層の理解と創造性豊かな子どもの育成に大きな成果をあげられますよう心から期待申し上げます。

おわりに、本研究大会を開催されました北海道造形教育連盟をはじめ関係機関、団体の方々に深く敬意を表しますとともに、参加の皆様方、今後益々の御活躍を祈念申し上げます。



第39回全道造形教育研究大会に寄せて

帯広市教育委員会教育長 小林 豊

第39回全道造形教育研究大会帯広・十勝大会が、全道各地から多数の先生方が参加され、本市において開催されますことはまことに喜ばしいことであり、心から歓迎とお祝いを申し上げます。

北海道造形教育研究会におきましては、全道的な視野に立って、毎年研究大会を開催し、貴重な実践研究を積み重ねられ、本道の造形教育の充実・発展に大きく貢献されていることに対して深く敬意を表します。

今日、学校教育は人間尊重の精神を基盤として、児童生徒の知・徳・体の調和のとれた発達をめざしております。しかしながら、学校教育や児童生徒をとりまく環境は必ずしも良い状態にあるとは言えないものがあります。「物」を得て「心」を失ったとよく言われますが、その一因として急激な社会の変化に対する「心の教育」の対応が十分でなかったことが指摘されております。

21世紀に向けて、創造的で活力ある社会を築いていくためには、画一的・硬直的な指導が改善され、生涯にわたる人間形成の基盤として必要な資質、豊かな個性や社会性を培うための基礎的・基本的事項の修得、さらには、たくましい体と豊かな心の育成を図ることが重要な課題であり、その意味からも造形教育の果たす役割の大きさを痛感するものであります。

本年3月に新学習指導要領が告示になり、とりわけ、「心の教育」や「個性を生かす教育」等が強調されております。なかでも図工・美術の教科では、造形的な創造活動を一層重視し、表現製作の能力を高める実践や情操を豊かにする指導が適切に行われることが求められております。

今大会は、「君はいま創造のとりこに……」を研究主題に行われますが、先生方の造形教育に対する熱意や使命感が伺える主題であり、教師が燃えて教育が変わるものであると考えるとき、まさに時宜を得たものであります。

また、昨今、幼・小・中・高の一貫性ある教育が推進されなければならないと言われておりますが、本大会に幼稚園・小学校・中学校・高等学校の先生方が一堂に会され、2日間にわたる研究協議さらには実技研修を深められますことは、まことに意義深いものと存じます。

帯広市の造形教育は、帯広市教育研究会図工部会を中心に研究実践が進められており、児童生徒を対象に「造形展」を開催するなど研究の積み上げに長い歴史をもっております。しかも、本市は豊かな自然や風土など造形教育にとって恵まれた環境を兼ね備えていると自負しているところであります。

この研究大会が実り多いものになり、十勝・帯広の造形教育にご示唆いただき、さらに北海道教育の発展・向上に寄与されますことをご期待申し上げます。

おわりにあたり、北海道造形連盟、研究大会運営委員会、関係各位のご尽力に厚く感謝申し上げます。



大井山麓
Futaba no Furusato

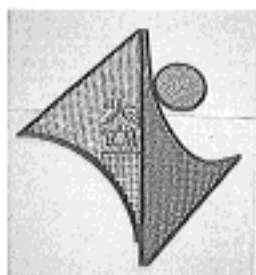
富久尾 登

会場校紹介 ようこそ大空小学校へ



学校教育目標

1. 心身ともに健全で、気力に満ちあふれた子ども
2. 礼儀正しく、明朗かつ達な子ども
3. 自主的に勉学にいそしみ、夢多い子ども
4. 自己の責任を果し、誠実に生きる子ども
5. 勤労に励み、進んで社会に奉仕する子ども
6. 創造性に富み、豊かな情操をもつ子ども



(ピンのよたで作らあげた)
校章

大会の確かな実りを

大空小学校長 太田道次

全道から、ようこそ大空小学校へおいで下さいました。「子供達のために、自ら創造のとりこたらん」と、参加されました先生方に、心より敬意を表します。

知育偏重の社会風潮は、子供達の夢を損ね、創造への意欲を減退せしめると嘆かれています。子供達から奪われんとする豊さを守り伸長させる責務を、教育の場に痛感するのであります。

本校に於きましても、昭和61年、「依存心が強い」「自己主張に欠ける」「表現力に劣る」等の子供の実態を探り出しました。その結果「心を揺り動かす教育の創造」を研究テーマに掲げ、豊かな感性と表現力のある子供をめざし、図工・音楽・詩の分野を中心に、授業研究をはじめ、子供の創造的思考を大事にしての作業活動を積み重ね、感動を組み立て成功感を味わわせる実践を試みて参りました。しかし尚未だしの感は拭い切れず、成果の証は容易ではありませんが、子供達の表現活動の嬉々に眼の輝きが見られ、行事等の取りくみに創意と積極性が芽生え、余裕を覗かせつつあると自負するところです。

さて、本校は開校19年目、美観を誇りし校舎も今は随所に寂れを呈し、また、研究実践の浅薄さをおもいうとき、果して多くの先生方を迎えて礼を失しない会場校たるかを迷うところでありました。しかし、本校教育の前進に大きく益することは明らかであり、全道造形教育連盟の方々、十勝・帯広の造形教育に携わられる諸先生方に激励され、意を決してお引き受けした次第です。以来、全力を尽して参りましたが、不行届きの点多々、なにとぞご容認くださるとともに、本校の研究実践にも温かいご示唆、ご指導がいただけましたら誠に幸いです。大会の確かな実りを祈念申し上げます。



(帯広市立大空小学校校舎)

ミニ沿革史

- S 45. 10. 1 帯広市立大空小学校として、児童数163名と教員9名で開校式を稲田小で行う。同年は校章・校歌を制定し、同年12月21日に新校舎にて学習。
- S 46. 3. 24 第1回卒業式(男3, 女13, 計16名)
- S 48. 8. 30 屋体完成 S 49. 7月 プール完成。
- S 54. 6. 10 校旗寄贈される。
- S 54. 12. 15 第5期工事完成で現在の校舎。
- S 55. 10. 1 開校10周年記念式典。
- S 58. 4. 1 36学級1,459名で全道でも大規模マンモス校としてマスコミに報道さる。
- S 63. 10. 30 フェンス完成(利用の写生展)
- 平成元年 4. 1 28学級1,022名

校 区 紹 介

ここ大空地区は人口約一万人の計画的に造られた町で、周囲が畑にかこまれ、くざられた感じのする独立した街です。この大空地区と空港南町、刑務所官舎を含んだ地域が本校の校区です。

こうした地域的条件が、住民の「我が町」としての意識を高め、自治活動も盛んにおこなわれ、教育にも高い関心が寄せられています。



七夕集会にはマーチンさんも特別参加

研究活動のあらまし

本来、子ども達は豊かな感性を持ち、感動したことを表現することに喜びを持っている。“心をゆり動かす教育の創造”「豊かな感性と表現力のある子どもの育成」を研究テーマとして4年次に入る。広範な表現領域の中から、静的な情操の育成に焦点を当て次のような課題で取り組んでいる。

- 01 国語、音楽、図工を通して豊かな感性を引き出したい。
- 02 感性を育て表現力を身につけ、児童の心と生活化をはかり、美的環境づくりに発展させたい。
- 03 培った成果を学級、学年、全校あらゆる場に生かし、交流を通して、友達の表現に感動する心を育てたい。

本研究の特色として、授業実践を基本にしなが、全校的な多様な研究実践の場を創造していることが挙げられる。土曜日課と連動させ、地域に開かれた「大空っ子フェスティバル」、全校詩画展、詩集発行、音楽集会、朝の教交流会、写生作品展、学級製作展、卒業式会場作品等々、日常的全校的な活動を職員一丸となって推進している現況である。



ビジュアルアートコンテストで優秀賞を授賞



おもいっきり楽しくを合言葉に



ずらり並んだみんなの顔・々（白黒画像より）

活発なPTA活動

またPTA各部の活動では大空コンサートに地域住民の協力（教養部）参加者五百名以上のレクリエーション大会（厚生部）、その他交通指導（社会部）、親子レク、広報写真展（広報部）、など有意義なPTA行事が行われている。



ハッスルママさんのミニパレー

頑張れ！北勝関閘

北勝関閘をご存知ですか。十勝からは大ノ国（芽室町）北勝南（広尾町）の2人の大横綱が出ていますのでちょっと陰に隠れた存在ですが、この北勝関閘は大空小の第8回卒業生で若手のホープとして幕内で頑張っています。皆様もこの大会を機に応援して下さい。



とてもうれしく思っています。

児童会会長 逢坂尚志

ぼく達は、先生方が、この大空小学校に来て下さった事を、とても光栄に思っています。

ぼく達は図工が大好きです。今回の造形研究大会をきかいに、今まで以上に造形の特徴を生かせるような学校になったら、いいなあと思っています。児童が、先生方のお役に立てるかわかりませんが、研究授業や歓迎セレモニーなど、一生懸命がんばりたいと思っています。

広がる十勝の青い空 緑あふれる

七月の大地 ようこそ 私たちの街帯広へ



武石 太

全国の図工の先生を心からお迎えしようと私達音楽委員会と前期音楽クラブは、この1ヶ月間、5～6年生の音楽の中心になって練習にとり組んできました。楽器の練習は、全員が集まって練習する時間がとれず20分休みや昼休みの短い時間の練習でしたが、6年生の三役が一生懸命みんなをまとめてがんばりました。6年3組は図工の授業のため歓迎セレモニーには参加しないのですが、クラブの人が伴奏者の不足を補うため自主的に伴奏を手伝ってくれました。練習不足で良い演奏ができるかどうか心配ですが、青く広がる大空のように、のびやかに演奏し先生達を心からお迎えしようと思います。

音楽委員長 吉田 操織

私達は、歓迎セレモニーのナレーターになった時から、いっしょうけんめい練習を重ねてきました。大きな声を出すために、口を大きく開ける練習や、ゆっくり、相手にきちんと伝わる話し方の工夫・そして、必死に暗記もしました。

当日、うまく話せるかどうかとても心配ですが、みんなと心をつにし、がんばろうと思います。

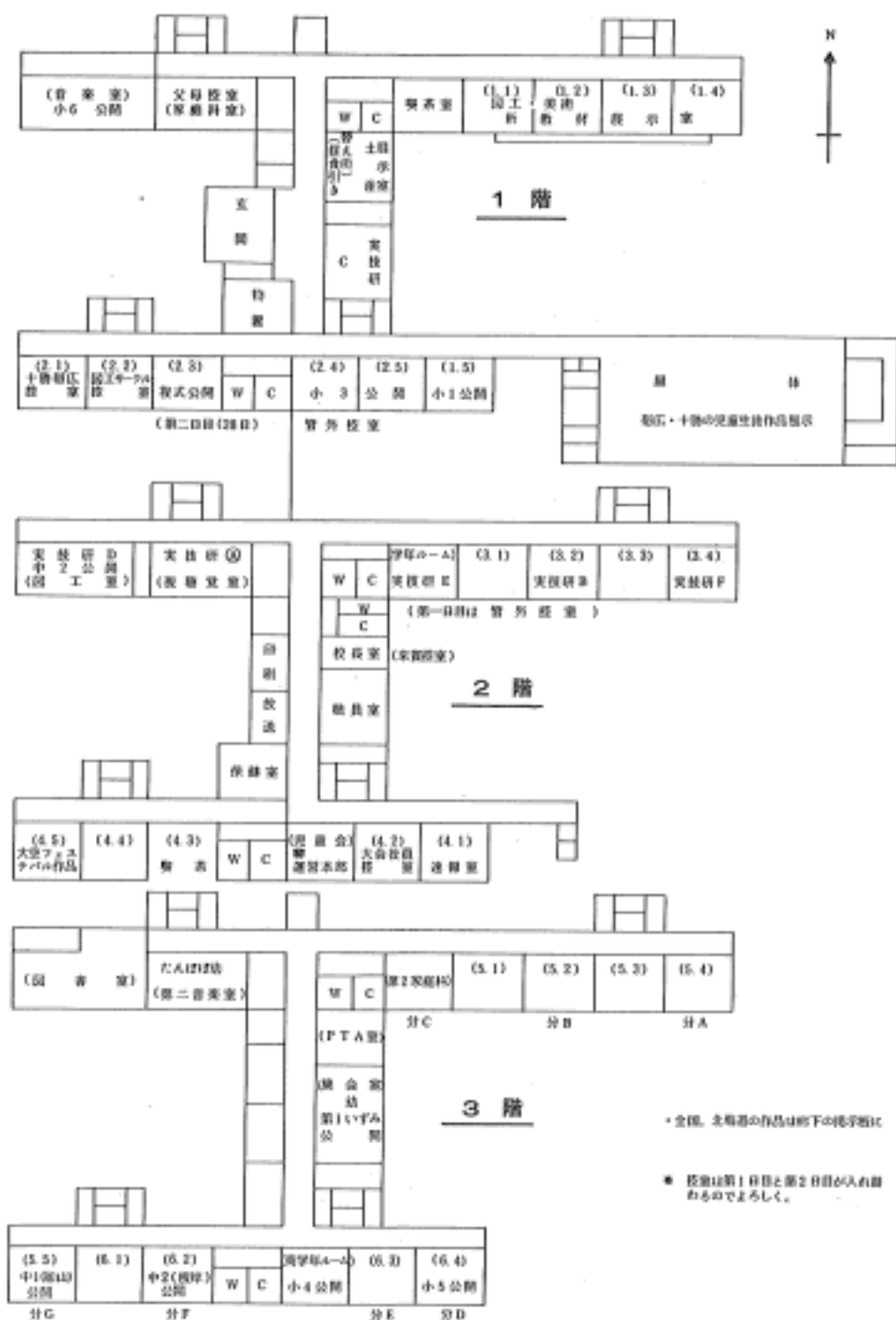
宮部真奈美
小俣 千鶴

みどりのワニ子
帯広市立南高等学校
吹奏楽部
練習 練習の練習
練習の練習 練習の練習
行こう 行こう Aを吹くのをやめよう
行こう 行こう Aを吹くのをやめよう 七月の帯広
Aを吹く Aを吹く Aを吹く
練習 練習の練習
練習の練習 練習の練習
行こう 行こう Aを吹くのをやめよう
行こう 行こう Aを吹くのをやめよう
Aを吹く Aを吹く Aを吹く
練習の練習 Aを吹くのをやめよう

大空 讃歌
帯広市立南高等学校
吹奏楽部
二 讃歌 讃歌
讃歌 讃歌 讃歌
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう
行こう 行こう 行こう



会 場 案 内



子どもの個性的表現を援ける造形教育の充実

4月29日 連盟北海道事務局
札幌市 地区委員の会にて「子どもの個性を援ける」
説明会を行いました。

北海道造形教育連盟研究部

今日的課題として、造形教育のみならず、教育が系統性というひとつの枠はめの中に子どもたちを押し込めていないかという懸念があります。

子どもが育ってきたこと、育ちつつあること、育っていくことの関連の中で子どもの変化を見ながら、子どもの育ちの多様さを受け入れ、それを援助することが指導として求められます。このことは、また、子ども一人ひとりの特質を捜し求める力量が指導する側にあることが求められることであります。

私達は、個性の多様性に対応して教育は本来多様でなければならないということに気付いたのであります。現状の集団教育のシステムの中で、多くの問題を含みながらも個性に即した教育の方法を考えていかなければなりません。また、教育の適時性ととも子ども達が自ら伸びようとする時期に、それを伸ばす教育が必要です。あくまでも教育を受けるものが自ら伸びるのを、教育する側が助けるのが本来の姿であることを、指導の主眼にすべきであります。そして、ものをつくり出す仕事、具体的なものに表す内容をもった造形学習は、子どもの個性表現を援ける厳しい仕事なのであります。

和泉貴徳

27

道徳的
社会的
（絶対的価値）
（相対的）

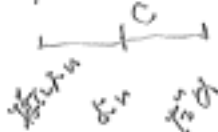
造形教育の特質をあげますと

- ① 記憶される情報をもとに、イメージを組み合わせて、新しいイメージを創り出すことに力点を置いています。
- ② 新しく創り出されたイメージをものに表し具体的なものとします。
- ③ この表現行為を通して創る力、感じる力を身につけ、人間的なわかるというものの良さやいみに近づく営みであること。

をあげることができます。この特質を、子どもの頭と心と手の総合的な働きによる実際活動によって表現への喜びに出会い、人間としての“わかる”という心を育てることにあります。その方策として、和泉貴徳。

- (1) 造形行動の初発としてのイメージを鮮明に浮かび出させるようにする手だてを試みてきました。の南光。
- (2) イメージを色や形を通して具体的なものにするための道具や材料、及び、それらを駆使する手や体から生まれる技術を学ばせてきました。
- (3) 優れた作品を通して人間のすばらしさに共感と共鳴の心を育て、自分の表現に生かしていくことに努めてきた。児童への活動を通じて表現は生かされてきた。しかし、その目標は達成されたもの。

1750'1000



見直しが必要

視覚的にかいがい

このことは、造形教育そのものだけに問題の原因がある訳ではありませんが、子どもの表現するものの中に、幾多の反省点があります。

- ① 子どもの作品が画一化され、没個性的な傾向が目立ち始めたということ。
- 子どものとらえ方がしかりせず、子どもの発表について深く考えた活動が弱くなっている点であるということ。
- 教えることと育てることの意味を一人ひとりの子どもの中に統合されて構築されているとは云われないこと。
- 子どもの生活への接近が不足して、子どもが生活を正視しなくなっていることを放置していることがみられるようになってきたこと。
- ② 子どもの側に教材の研究にエネルギーを使わなくなり、手みちかな安易な教材が増えつつあるということ。
- 造形する態度への要求と寛容についてはっきりとした決断が一人ひとりに不足していること。

今と比べて

今、教育の在り方を再評価して、私達の指導の質を整えねばならない時に来ていると考えます。このような停滞と模索は造形教育ばかりでなく、今日の日本の教育全体の中にもあるのです。

ここに新しい教育の在り方を求めて他方面からいくつか提案がなされています。閉鎖状態からの離脱を図ろうとしているのが今日の動きであります。新指導要領が発表されたのもこれらの動きの方向上のひとつであると考えるてはなりません。

21世紀にむけて日本教育の全体方向として考えられることは、

- ① 人間形成に必要な基礎的・基本的な生活の習得徹底
- ② 学習の喜びと生涯学習の意欲の育成
- ③ 自己教育力の育成にむけての多様化の推進
- ④ 社会変化への適応性 (国際化、情報化に対応) 等
- ⑤ 学習の主体性、学習者の自己実現
- ⑥ 教育内容の重点化、精選化
- ⑦ 体験学習、地域素材の教材化
- ⑧ 総合学習の意義の自覚
- ⑨ 学年、学級制度の弾力化
- ⑩ 自然や社会環境への学習の場の拡大

106

といったことを挙げるすることができます。

造形教育の内容も方法も、これらの方向に呼応し、その質の高さが求められるであります。

造形教育がその理念として目指す子ども一人ひとりの個性的表現とそれがこれからの教育の中心課題にならなければなりません。それは今後の授業観と相俟って、教育の主流になることであります。

- 強調すべきことは“教える”ことよりも、むしろ“学ぶ”ことにその力点が移動し、指導者は学習者の個々に焦点をあて、学習者自身の学習過程が最大になるように努めていくであろう。
- 一人の学習者は独立した人格として受容し、学習者の感覚と発想は一

尊重され、自ら追及し、自分が答をだすことが求められてこよう。

- 学習者の個性とオリジナリティ（独創性）を支持し、それを育てるため学校の機能は個人の間にもみられる個人差を拡大し、その差異を尊重する態勢が作りだされるように努力するであろう。
- 子ども自身の学び方は、抽象ではなく具体的な経験を通じた発見と探索による学習法を強調し、それを推進するであろう。
- 教師はこれらの考えにたつ学習過程において、学習のパートナーであり、ガイドになることであろう。
- 指導の個別と同様に、個人の進歩に対して個別化する必要がある、一人ひとりの進歩を確認することを基本とすることになる。

子どもの個性や特性に応じる教育の在り方をその教科の基盤としている造形教育は、このような考えにたつてすめなくてはならないと考えます。

このような教育の流れをみつめ、本連盟はこどもの個性的表現にむけての援助のための実践を深めていかなければなりません。そこで当面次の切り込み口から研究を深めていくこととしました。

- (1) 子どもの自伝達（内的信号、つぶやき）の読み取りを深め、子ども達の生活の中から空間に対してどうかかわるのかを読みとる研究。
- (2) 今までの教材を再吟味し、それを評価し、その有効性を拡げていく実践に努める。
- (3) 教えるもの、育てるもののアプローチを多様化し、新しい指導方法を考え出していく。
- (4) 材料体験を積極的にし、それが単発的な指導にとどまることなく連続的・連続的な単元構成まで高める研究。
- (5) 新しい指導要領のねらいと内容に対して、ひとつの意見をもつ理論研究を進める。

これらの活動を通して、私達は学習過程ばかりでなく生き方についても、

- (1) 造形活動が一人ひとり子どもの一生を通して続いていくものになるようにしてやりたい。
- (2) 子ども一人ひとりが自分自身に表し、それを吟味して新しいものへと進出していくことが続けられるようにしてやりたい。
- (3) かって芸術家の苦しみ、努力、喜びをたとえ芸術家として評価されなくても自分なりに味わっていくようにさせたい。
- (4) 材料との直接体験を通して皮膚や筋肉を整えることを、目を訓練することと同様に大切にしたい。

のことについて、子どもたちの自信の獲得のための援助を工夫していかなければならぬばかりではなく、そのことをなによりも指導の中心課題としていかなければ、子ども一人ひとりの個性的な生き方のにじみ出たものは創りだせないであります。

一人ひとりの子どもが、個性的で独創的で創ることの喜びや造りだす力を育てるためにいくつかの教材づくりへの視点を掲言してみたい。

- (1) 子どもたちの発想を奔放に表出させる教材づくり。
 - 子ども達白らの考えを生かし楽しむことを目的とし思いのままに表

現することを奨励する教材の開発と指導。

- 素材のみ提示し、子どもの活動や表現を見守る教材と指導。
- (2) 子ども達の表現を拓げる教材づくり
 - いろいろな表し方に気付かせ子どもの表現製作の方法を拓げさせる教材と指導。
 - 色と色、形と形、形と色との関係における可能性を拡大、発展させる教材とその指導。
- (3) 子ども一人ひとりがその個性に基づいてこだわり探求(深める)する教材づくり
 - 自分自身の思いを見通しをもった活動の中で深く掘り下げていく教材づくりと指導。
 - 見方や感じ方を深めつくることへの誠実さや態度を育てる教材とその指導。
- (4) ~~これらの~~学習活動が従来の領域や分野の束縛から離脱を図る教材の開発
- (5) 手段としての生活科の造形活動をのりこえた、目的造的造形活動の造形あそびの開発
- (6) 造形の営みとしての鑑賞活動の充実
 - 表現のための参考作品、導入作品の鑑賞から子ども自身の感性が対話する営みのある鑑賞活動の開発。^{思いやり}

子どもたち

造形学習は創造され否定されるものである。子どもの実態、地域の特性に依じて常につくり替えるものでなくてはならない。子どもの造形表現の個性をその中核におくならば、^{大切に}なにをこの発達の中に投げ込めば大きくふくらみ成長するかといった視点で、過密化した教材の一層の精選を図り、子どもの美術的成長を促し、手仕事と子どもの生活を高めるための指導に向けて努力しなければならない。^{ごしゅう}

造形に携わる者は^{子どもの}ことを念頭におきながら

○一人ひとりの生き方に焦点をあて、子どもを大事にしなが、造形活動が子どもの学校生活の中で生き~~る~~その学級をつくり高める仕事として位置づけて努力する。こゝ、

○造形に携わる者のみに閉鎖することなく、広い視野をもって、学校づくりに貢献し、教育を子どもの手に戻すように努力する。^{こゝから}

造形教育活動が子どもを通して人間に成長する営みの最も大きな役割を自覚し、子どもの中に深く根をおろし、子どもがその秘めた人間になるためのエネルギーを引き出すしごとを、人生の先輩として謙虚に、誠実に、温かく、そして厳しく子どもとの質的交流の中で進めていきたいと^{考えます。}

以上のことをふりかへ、^{本誌}連載の研究主題「子どもの個性の表現を拓げる造形教育の発展」をかかげました。

(文責 連盟研究部長 富田 泰 「札幌市立伏見小学校」)

子どもの個性の表現を拓げる造形教育の発展
 のテーマのことも
 世帯の子供に呼びかけに
 役立ちます。ふたつあります。
 君は、いよいよ創造のとりこに
 なった。
 静かなる、こころの
 説明と、こころの
 こころの、こころの
 幸ひです。
 こころの、こころの
 今、
 こころの、こころの

君はいま 創造のとりこに

帯広・十勝大会研究部

1. はじめに

いま、教育に期待するものの一つとして、「個性の尊重」があげられています。これからの創造的で活力ある社会の担い手を育成するためにも、あるいは、学校教育の現状に対する様々な指摘に応えるためにも、このことが不可欠の要件であることは、いまさら詳述するまでもありません。

本大会を迎えるにあたり、その準備に携わってきた私達は、個性とか創造性とか情操などという、今日、様々な立場から特に重要視されているこれらの言葉や概念に、いつもより多く触れたり考える機会に恵まれました。本大会の中でも、私たちはこれらのことについて考えを深めるとともに、一教科の視点からだけでなく、教育全体の観点から、自らの教育実践を謙虚に振り返り、より一層の充実に努めなければならないと考えます。

いま、図工・美術教育は、厳しい状況下におかれていると言わざるを得ません。本大会で、私たちはみんなで、あらためてその意義や重要性を確かめ合い、積極的に周囲の理解を求めながら、その充実発展のために努力していかなければならないと考えます。

2. 子どもたちの現状から

美的に表現するとか何かを創り出すということは、一人の人間にとっては大変な仕事です。美的表現活動は頭と手と心が一体となって働く総合活動です。

イメージの創出、それを目に見えるように空間に形づくっていく構想力、対象や素材との関わりの中から要求される確かな技術、それに、愛情とか集中力とか誠意とか表現意欲という心の問題が総合的に働いて美的表現活動がなされています。

私たちは、創造の営みを支えるこれらの諸要素の中から4項目を抽出し、帯広・十勝の子ども達の状況についてまとめてみました。

全体的傾向としては、子ども達の様子には十分満足していないといえましょう。

さらに、個々の意見に目を移しますと、教室での悩みや問題点が浮かび上がってきます。

この調査を基礎資料にして、私たちが、いま、何をしなければならぬか、実践的課題を探ってみました。

① 深める活動

図工・美術科を指導していれば、自然に子ども達の創造性が豊に育つわけではないと考えます。

1. 子ども理解

子どもの個性的表現を期待するためには、子どもについて知る努力を。

- ・子どものくらしの実態を。
- ・子どもの造形発達特性を。
- ・子どもの造形的特徴・特長を。
- ・子どもの興味関心を。

2. 教材研究

特に、子どもに教材(題材)を与えることによって授業が進められる教科経営の現状では、1つの教材(題材)の持つ意味は大きくそれを与える私たちの責任も大きい。

- ・願いやねらいが明確な教材を。
- ・教えること、育て・援けることをおさえた指導方法を。
- ・豊かな材料体験、大胆な単元構成を旨とした新しい教材づくりを。

2) 広める活動

図工・美術の教育だけで、子ども達の創造性が豊かに育つわけではないと考えます。

1. 教材の枠を超えて

- ・創造とかものを創り出すことの意義やその営みは、単に図工・美術の教育だから重要なのではなく、教育全般の問題として考えたい。

子ども達の学校生活のあらゆる場面は、常に新しく生き生きして、創造的なものでありたい。数多い行事の中で、他の教科と連動させた活動の中で、ゆとりの時間の中で、図工・美術教育を大いに役立たせたい。

「美しい環境・美しい生活は、美的人間をつくる」といわれています。

2. 教室の枠を超えて

- ・日常の実践を密室化することなく、隣接する教室の担任と語り合い、図工・美術教育に対する理解と共感の輪を広げたい。

かつては、指導の名人芸がもてはやされたことがありました。しかし、教育は子ども達のもので、どの子どもにも創造の喜びを体験させたいと願うなら、教室の中の実践を学校中に積極的に広げたり、素晴らしい実践から謙虚に学ぶ努力が必要です。

3. 学校の枠を超えて

- ・子ども達が育ってきた地域です。学校も地域と共に育っていききたい。

子ども達の生活環境を美術的にとらえ直すとき、そこには素晴らしい子ども文化が見えてきます。何気ない風景や遊びから、言葉や道具から、住んでいる人々や今まで伝えられてきた物事などから、造形的素材が見えてきます。

学校と地域が互いに刺激し合いながら、子どもや子どもをとりまく地域文化を高めていこうとする努力を続けていかなければなりません。

3. 創造のとりこに

これらの数多くの課題に向かって、私たちは、独創的に・明確に・誠

意をこめて取り組む必要があります。

独創的には、個性的に置き換えが可能です。私たちが接する子ども達は、学年が変わっても年度が変わってもいつも新しく、時代を反映して生きています。私たちも、過去を尊重しながら、子ども達が生きていく未来を見据えて、常に新しい感覚で教材や指導方法を工夫していかなければなりません。

そのために、時代や子どもや教育とか教科に対してどんな願いを持っているのかを、明確に、しかも的確におさえておくことが大切だと考えます。

特に図工・美術科では、子ども一人一人の個性が大切にされます。子どもの作品はその子どもにとってかけがえのないものであり、生きている証であるからです。そのために私たちは、子どもや教材についての理解を深め、誠意をこめてそれらに接する努力を続けなければなりません。

以上の3つの要点を、授業中の子どもの姿や、そこから生まれた作品の見方などにも当てはめることができます。

子ども達は、自分や対象に働きかけて自分独自のイメージや制作計画を創り上げ、自分の知識や技術を的確に駆使して粘り強く取り組み、一つの作品を完成させるのです。

このような子ども達の創造活動の過程の中で、子ども達は新しい自分を発見するのです。それを援ける私たちの営みもまた、創造活動といえましょう。そういう意味で、創造のとりこになるのは、まさに私達自身でなければならないでしょう。

子 ども	創造活動	教 師
・発想や構想、計画や表現方法を独創的に	独 創 性	・教材や題材の研究開発 ・指導方法の工夫
・制作意図や願い ・表現方法や技術	明 確 さ	・願いやねらい ・指導の計画や見通し
・対象への愛情、理解 ・集中して最後まで	誠 意	・子どもへの理解、愛情 ・題材や教材への愛情

4. 創造体験を全ての子どもに

図工・美術のような、子ども一人ひとりが一貫して行う発想・構想・計画・実現というものを創り出す体験は、自らの意志で生きてはたらくたくましさを育て、豊かな人間的情感を醸成します。周りの人々との心のふれ合いも生まれます。

教育の中で重要な意義を持つこのような創造活動を、今日だからこそ全ての子ども達にじっくり体験させる必要があると考えます。

(文責・本間義祝)

参考資料①

アンケート(教師用)

1988.5

子ども達の様子についてお知らせ下さい	
5 = 大変満足している	——— - 小学校
1 = 大変不満である	----- - 中学校

帯広・十勝管内
小 中 学 校

設 問 内 容	5	4	3	2	1
A 発想や構想の豊かさについて a 発想や構想の豊かさについては	•	•	•	•	•
B 基礎的技術について a 筆, パレット等の使い方は	•	•	•	•	•
b 刃物の使い方は	•	•	•	•	•
c 定規, コンパス等の使い方は	•	•	•	•	•
d 折る, 接着する, 合わせる等は	•	•	•	•	•
C 関心・態度について a 時間を楽しみにしているか	•	•	•	•	•
D 意欲や誠意について a 納得するまで仕上げようとするか	•	•	•	•	•
b 夢中になって制作できるか	•	•	•	•	•
c 作品を大切にするか	•	•	•	•	•

参考資料②

第39回 全道造形教育研究大会のためのアンケート集約(市内)

君はいま創造のとりこに

5 = 大変満足している	4 = 満足している
	3 = 普通
2 = 不満である	1 = 大変不満である

	小	中	全
A 発想・構想に関して			
a 子供たちの発想や構想の豊かさについてはどうだろうか。	a → 2.91	2.58	2.80
B 技法・技能に関して			
b 筆・パレット等の使い方についてはどうだろうか。	b → 2.54	2.58	2.56
c 刃物などの使い方はどうだろうか。	c → 2.45	2.25	2.30
d その他、物差し・コンパスなどの用具の扱いはどうだろうか。	d → 2.58	2.75	2.64
e 折る・接着する・重ねるなどの基礎的技術についてはどうだろうか。	e → 2.58	2.58	2.58
C 造形活動に対する意欲・誠意等に関して			
f 自分の作品に納得するまで仕上げようとする意欲や態度についてはどうだろうか。	f → 3.16	2.58	2.97
g 図工・美術の時間に、子供たちは夢中になっているだろうか。	g → 3.62	2.91	3.44
h 自他の作品を大切にする行為・態度について。	h → 3.20	2.66	3.03
D 造形活動に対する興味・関心に関して			
i 図工・美術の時間を楽しみにしているだろうか。	i → 3.70	3.16	3.53
E 子供の心を育てる文化等に関して			
j 豊かな心を育てる上で、子供をとりまく環境について。	j → 2.83	2.16	2.61

F 子供たちが、図工・美術の時間に意欲的でないのはどんな時ですか

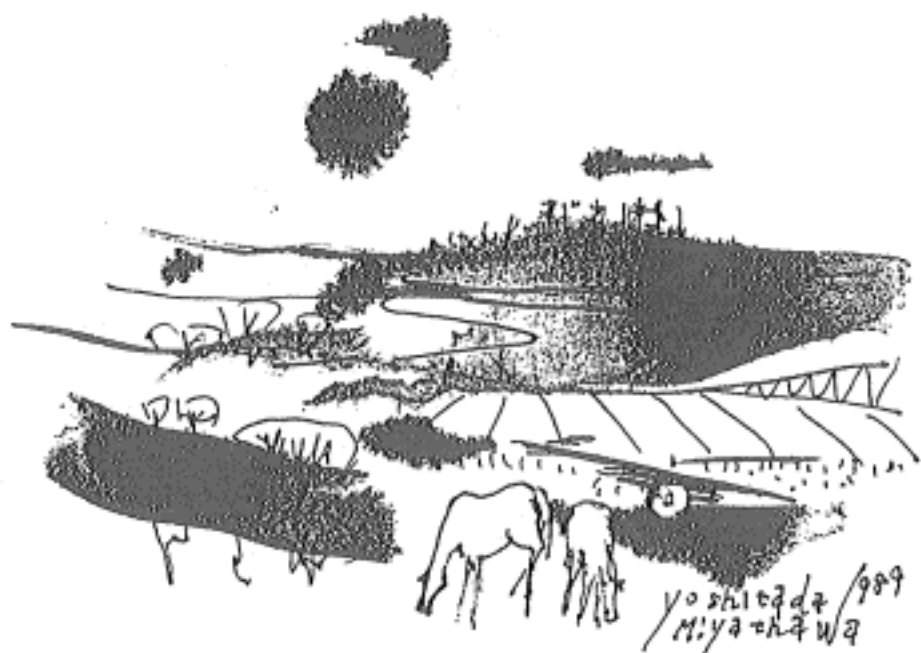
- ◎何を作ったり描いたりするのかはっきり分からないとき。
- ◎教材の準備が不備のとき。
- ◎興味関心の薄い題材を取り上げたとき。
- ◎絵の構想が思い浮かばないとき。
- ◎教師側が教材を十分に把握していないとき。
- ◎工作の設計・構想をするとき。
- ◎材料に新鮮味がないとき。
- ◎完成までの手順が明確でないとき。
- ◎発想（構想）と技術が適合しないとき。
- ◎長時間かけて製作するとき（持続性に欠ける）。
- ◎製作の目的・方法が明確でないとき。
- ◎学級集団の学習・生活の基本的きまりがだらしない状態のとき。
- ◎教師がその授業に意欲的でない態度を取るとき。

G 子供たちが、図工・美術の時間に夢中になって励むのはどんな時ですか

- ◎全く自由に表現活動をするとき。
- ◎粘土のように目と手がいっしょに動くとき。
- ◎みんなでいっしょにできるとき。
- ◎作品がうまく仕上がっていくとき。
- ◎材料などが日常的に接することの少ないものだったとき。
- ◎児童一人一人の興味関心により選択させたとき。
- ◎発想（構想）と技術が適合しているとき。
- ◎技術の向上が少しずつ自覚できているとき。
- ◎教師の日常活動がなされているとき。
- ◎新しい素材・新しい教材。
- ◎少しでも成長し、作品の成功度が上がっているとき。

H 図工・美術を教育するに当って、困っていることはありませんか貴方のご意見をお書きください

- ◎喜び・感動が持続できずあきやすい。
- ◎道具、材料の使い方や創意工夫が模型セットやテレビ、マンガ等で安易になり過ぎていて、努力したとまらない傾向がある。
- ◎指導の定着や継続が難しい（担任が変われば消えてしまう）。
- ◎構想の段階で、新しい発想を持たせることが難しい。
- ◎時間が足りなく、じっくりできない。
- ◎児童の発達段階に応じた指導が難しい。
- ◎作業の遅い子に対する指導をどのように行うべきか。
- ◎時間が不足。
- ◎よりよい作品に仕上げようとする意欲に欠ける。
- ◎基礎・基本は大切に指導しなければならないが、現代の子供たちが興味と関心をもっている美術教材の開発すべき新題材の研修も必要ではないだろうか。
- ◎生徒が努力しても評価の人数がおさえられ、その努力評価が通知表に反映されない。相対評価による限界。



宮沢克忠



中西堯昭

公開授業一覧

種別	学年	授業者名	学校(園所)名	公開領域等
幼・保		藤田 恭子 アシスト 山口かよ子	たんぼほ保育所	造形あそび ダイナミックな粘土あそび
		泉谷 美津枝 遠藤 五月 アシスト 三井みゆき 阿部 初実	第1 いずみ幼稚園	総合活動 新聞紙をつかって
小学校	1	出村 英和	芽室小学校	工作 ふえをつくる
	3	伊藤 隆士	大空小学校	デザイン工作 まよい道
	4	小山田 菊太郎	花園小学校	デザイン つづき絵
	5	柴田 真	明星小学校	デザイン工作 立体迷路
	6	遠藤 妙子	大空小学校	絵画 人物クロッキー
	複式	岡本 真一	人舞小学校	デザイン・工作 草花の汁を使って
中学校	1	影山 美香	第六中学校	絵画 人物クロッキー
	1	根岸 邦昌	札内中学校	絵画(凹版画)自画像
	2	工藤 良三	大空中学校	工芸 輪付きスプーンの製作

分野	粘 土
年令	5才児
教室	3 階 北

題材名 造形あそび ダイナミックな粘土あそび
 指導者 帯広市立たんぼほ保育所 藤田 恭子
 児童 帯広市立たんぼほ保育所 ばなな組 22名

プロフィール

- ・1982年 帯広三条高等学校を卒業後短期大学に進学。
- ・1987年より、たんぼほ保育所に勤務する。86～87シーズンより始めたスキーがストレス解消法。
- ・親と「同居貴族」を自認しています。

私のひとこと

図工・美術大好きな私がいづのまにか保母になり、描画等、表現することが苦手な子と対応した時、彼らの気持がわからず困惑しました。そんな彼らも粘土は大好きで、今回の題材設定となりました。個人が力を出しきることを望むだけです。

1. 題材について

自由に、思いのままに立体的に形を作り出すことができ、何度でも工夫し作り直せるという粘土の特質から、子供達は安心して心を解放し楽しく、のびのびとした表現活動を行う。加えて、大量の粘土を使うことにより個人では見られないダイナミックな作品にグループで挑戦する。

2. 本時のねらい

- 1) 各テーマに対するイメージを深め、発展させ、表現し楽しむ。
- 2) 自分達の作品に満足感を持ち、それを各人の自信につなげる。



3. 本時の展開

児 童 の 活 動	指 導 の メ モ
◎歌をうたう。	・子供の緊張をはぐし、気分をリラックスさせる。
◎今日は何を作るのか確認しあう。 (事前にテーマを決め、作業に入っているのが最後の確認)	・前日、子供と一緒に、おおまかな下地を作り、ゆとりを持って粘土遊びができるようにしておく。 ・前日までの経過を子供と確認し、今日の作業をはっきりさせる。
○作品を作り始める ・グループ毎に作るテーマは異なる。 ・予想されるテーマ 保育所周辺の様子 動物園作り	・障害児、積極的に参加できない子の側に保母がついて、遊びに参加できるよう補助。 ・補助素材の使い方をアドバイス。 ・イメージが出てこない子に対しての働きかけ。 (話しをしたり、アイデア提供)
○できあがった各グループの作品を集めて互いの作品を見あう。	・作品を評価する中で、それぞれの自信につなげていくように声かけをする。
○終 了	使用教材 ・粘土 ・粘土ペラ ・ベニヤ板 ・割りばし ・針金 ・その他

分野	総合
年齢	年長児
教室	3階中央

題材名 新聞紙で遊ぼう(迷路づくり)

指導者 裕広学園 第一いずみ幼稚園 遠藤五月・泉谷美津枝

アシスタント 三井みゆき・阿部初実

園児 1,2,3年保育 年長組 すみれ組 31名

プロフィール

三井みゆき(8年経験)遠藤五月(7年経験)泉谷美津枝(7年経験)阿部初実(3年経験)。子どもたちに負けない位明るくパワフルな私達です。日頃から作ってあそぶ活動が好きで、おもしろいあそびを日夜研究しています。

私のひとこと

子どもたちには、作る活動も遊びの一つとして楽しんでほしい。目的をもってあんなふうになりたい、こういう材料が必要等考えられ、一人ではなく、みんなで楽しむことができるイキイキした子どもになってほしいと思う。

1. 題材について

子どもたちは迷路が大好きである。今回は身近な素材の新聞紙を利用し、長くはり合わせて迷路をつくる。

2. 本時のねらい

- (1) 迷路づくりの楽しさを味わっている子どもたちが、新聞紙を利用してあそぼうとする。
- (2) これまでに子どもたちからうまれたルールをもとに、みんなで楽しくあそぶ。

3. 指導の過程

- (1) 新聞紙をちぎって遊ぶ。
- (2) 牛乳パックで迷路づくり。出口・入口が必要なことがわかる。
- (3) おぼけやしき、ロープに新聞紙をはる。(できるかなを視聴して)
- (4) ダンボールで迷路づくり、どンドンつなげてゆくと面白いし、ルールもできてくる。



4. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ (環境設定)
◎迷路をどのようにつくるか相談する。	・一人ひとりが目的をわかってできるよう、また迷路づくりのイメージをもてるようにする。 (環境)あらかじめロープをはりめぐらしておき迷路のイメージをもちやすいようにしておく。
◎新聞紙をつなげて迷路をつくる。 ・自分のイメージを表現したり、お友達からも刺激を受けたりして作ってゆく。 ・必要なところはガムテープで補強したりホチキスでとめる。	・ロープのはじから新聞紙をはるとよいことを伝える。 ・子どもたちが考えたり工夫したところを認めて、更に頑張ろうと思えるよう配慮する。
◎用具を片付ける。	・みんなで片づけられるように声をかける。
◎迷路であそぶ。 ・自分たちがつくった迷路を楽しみ、決めたルールを守ったり、新たにイメージしたことを加えたりしてあそぶ。	・ルールを生かしてあそべ、大人も参加して、みんなで楽しくあそぶ。 ・でき上がった迷路であそぶ満足感を味わえるようにする。
	<準備>----- 新聞紙、セロファンテープ、布テープ、ガムテープ、ホチキス、ロープ、竹ざお、クレヨン

分野	工 作
学年	① 1 年
教室	1 階 南

題材名 ふえを、つくろう
 指導者 芽室町立芽室小学校 出村 英和
 児童 帯広市立大空小学校 1年5組 34名



プロフィール

- ・S16年 十勝郡浦幌町の山の産教育大釧路分校卒業、教職27年目
- ・現在芽室小学校2年担任、5校4年目
- ・酒は、顔で飲まず、からっさしダメ。煙草と妻を愛し、小さな体で頑張る。
- ・十勝造形サークル事務局担当

私のひとこと

他校の児童を授業するのは、初めての試みである。まして全道研。生涯の思い出となることであろう。低学年から知識が肥大化している現状。欲求を盛り上げ楽しい表現活動をさせてみたい。よさを感じ取る眼、育てる心を私自身養いたい。

1. 題材について

入学以来4ヶ月、生活経験も豊かになり物事に対する関心興味も豊富で創造的になってきている。空き缶とストローで作出した音から、自分の好きな動物を想像して形を作らせたい。概念的な色や形にこだわる傾向が多いので、形作りの色画用紙の色数を制限することによって独創的な表現をし創造性を高める。音を出す遊びから、いろいろな形を作ることによって、身の回りの物に関心を示し教材化したり、遊びの中から表現活動の芽生えを養うことが大切である。

2. 本時のねらい(1/3)

・空き缶とストローで、笛を作って遊び、楽しい造形活動をあじわわせる。

3. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ
<p>1. 主題(意欲を持つ)</p> <p>◎空き缶から、どのようにしたら、音を出すことができるか、やってみる。</p> <p>・ストローを使って音を出してみる。</p>	<p>◎準備の確認をする。</p> <p>◎音を出す、いろんな方法をやらせる。</p> <p>◎本時に作る笛を、とらえさせる。</p>
<p>2. 表現する(制作)</p> <p>◎ストローを2本にして、セロハンテープで巻いて1束にする。</p> <p>◎束ねたストローを缶の穴の「ヘリ」にあて、どの位置が、よく鳴るか吹いてみる。</p> <p>◎ストローをガムテープで缶に固定する。</p> <p>笛を全員で吹いてみようク</p> <p>◎みんなで「すてきな おと」の歌をうたいながら、笛を吹いてみる。</p> <p>◎笛の音から、動物を思い出して発表する。</p>	<p>◎黒板に作成図を貼り、作り方を知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローの切り方(2本にする) 長さのそろえ方、セロテープのとめ方。 ・ストローと穴の当て方の注意 音の一番良くでるところを見つける。 <p>◎ストローの固定をきちんとさせる。</p>
<p>3. 表現の喜び(鑑賞)</p> <p>◎できた笛を見せ合い、気持ちを発表する。</p>	<p>◎楽しく歌わせる。</p> <p>◎動物の鳴き声を想起させる。</p>

〈準備〉

- ・児童
- ジュースの空き缶
- ハサミ、のり
- ・教師
- ストロー
- セロハンテープ
- ガムテープ
- 色画用紙

分野	デザイン工作
学年	㊦ 3 年
教室	1 階 南

題材名	まよい道	
指導者	帯広市立大空小学校	伊 藤 隆 士
児童	帯広市立大空小学校	3年3組 35名



プロフィール

教員6年目の新米(?)教師。昭和59年～昭和62年まで帯広市立緑丘小学校情緒学級に勤務しました。昭和62年4月より現在校に勤務。今春3月、感激の卒業式を終えたばかりです。4月より3年3組になり、現在に至っています。

私のひとこと

初めての3年生担任、初めての図画・工作の研究授業、初めての全道公開授業、初めてつくしの平成元年度です。造形教育の専門家の先生方に参観頂くので、緊張しております。楽しい授業をめざしてがんばります。

1. 題材について

一人一人が、小さな箱を利用して「まよい道」を作った。その発展学習として、学級の子どもたち全員が協力して、大きな「まよい道」を作る。素材としてダンボールを使用する。

2. 本時のねらい(8/8)

- (1) 道具を使ってダンボールのまよい道を作る。
- (2) 力を合わせて作業をする。
- (3) 大きなまよい道で楽しく遊ぶ。

3. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ
○本時の活動を理解する。 ・前時まで、班毎に分担して作ったダンボールのまよい道を組み合わせること。	・全ての児童が、授業に期待を持てるようにする。 ・最後にダンボールのまよい道で遊ぶことを知らせる。
○道具の使い方について確認する。	・ダンボールの切り方(カッターの使い方) ・組み合わせ部分の接着方法。
○各班ごとに、担当の部分が出来ているか確認する。	・未作成の部分を作る。修正の必要なところをなおす。
○それぞれの部分を組み合わせていく。 ・組み合わせる部分を、テープでつけるか、接着剤でつけるか考える。 ・あとかたづけ。	・組み合わせが上手にいかない児童の助言を行う。 ・全ての児童が、自分の仕事を持つようにする。
○完成したダンボールのまよい道を使って楽しく遊ぶ。 ・遊ぶ順番を決める。 ・簡単なルールを決める。	・全員で同時に遊ぶことができないので、見ている児童は、ダンボールの弱いところをおさえる。
○感想を発表し合う。 ・ダンボールのまよい道づくりのむずかしかったところ。 ・もっと工夫したほうがよいところ。	・5～6人の児童に発表させる。

…準備するもの…
児童
・ダンボール
・カッター
・カッター板
・じょうぎ
・ガムテープ
・はさみ
・接着剤
指導者
・大きなはさみ
・マジック
・目うち
・すずらんテープ

分野	デザイン
学年	④ 4年
教室	3階南

題材名	つづき絵	
指導者	帯広市立花園小学校	小山田 菊太郎
児童	帯広市立花園小学校	4年2組 28名



プロフィール

昭和15年生まれ、昭和39年北海道教育大卒業。教員生活26年目、郡部校より帯広市内校に入って9年目。
趣味は彫塑。暇が出来、気分がむくとねっちりと制作する。

私のひとこと

描く作るなどの作業を通して、子供の心を自由に解放すること。独自の能力や技術を伸ばすこと。なるべく大人の考えや表現方法を押しつけないこと。真実の表現は認めること。表現しようとする本能的な素質を大切にすること。等を日頃の学級経営及び図工教育の中で、念頭に置いて実践し努力をしている。

1. 題材について

次から次へと移り変わって行くテレビのコマーシャルや漫画などは、確かに子どもを引きつけて離さない魅力を持っています。そして、それらが子どもの生活の一部として定着し、子どもたち自身もその中にひたたりきり、ほのほのとした温かさと、粘り強く自分のものを探し求めていく態度や、造形的な構想力が失われつつあることが指摘されている。

一人ひとりの子どものかじこさ、個性、感性に気づき、それを磨き合い、高め合い、失いかけているものをすこしでも呼びおこしたいという願いを持ちながら、デザインの能力としての色や形、材料に対する感覚などを高め、それらを総合して構想し、造形的な良さや美しさを考えて作ったり、事象を視覚的に伝えたりする能力を養うことにより、心豊かな人間性を育む上で重要であると考え、この題材を設定しました。

2. 本時のねらい(1/4)

- (1) 参考作品を見て少しずつ変わっていく絵のおもしろさを知る。
- (2) 題材について理解を深め、簡単なアイデアスケッチができる。
- (3) 決定したアイデアスケッチにもとづき個性的に表現する。

3. 本時の展開

4コマ

児童の活動	指導のメモ
1. つづき絵について理解する。	・参考作品を読みとらせ、つづき絵の必要条件を理解させる。
2. 自分の作ったお話をどのように表現するかをアイデアスケッチをする。(4コマ程度で)	・アイデアを交換させ、イメージをふくらませる。 ・各自の構想を発表させ、自分の考えに不足やむだがないか話し合わせる。
3. アイデアスケッチをもとに、各自が工夫を加えながら表現する。	・形の単純化。場面のつづきがよくわかるか等を助言する。 ・色彩の対比や調和・形の特徴や話の内容にあった色の使い方を工夫させる。
4. 形や色の効果を確かめながら表現する。	・アイデア、形や色の組み合わせ
5. 作品のおもしろさや良さを交換する。	・すじのおもしろさ、楽しさ、その他自由な感想を発表させる。 ・学習の終えた感想をまとめさせる。

- 準備するもの
- 児童
 - ・鉛筆
 - ・定規
 - ・教科書
 - ・蛍光ペ
 - 教師
 - ・参考作品
 - ・色画用紙
 - ・スケッチ用紙

分野	工 作
学年	⑤ 5 年
教室	3 階 南

題材名 立体迷路
 指導者 帯広市立明星小学校 柴 田 真
 児童 帯広市立明星小学校 5年1組 34名



プロフィール

教員5年目。まだまだ未熟な新米教師です。図工は、教えるよりも自分で作業する方が好きで、製作に夢中になり、ついつい子ども達を、ほったらかしにしてしまいます。(ひどい先生だろ)

私のひとこと

「先生は、こんな風にしてみました。みんなはどんな工夫をしたの？」いつもこんな調子で楽しんで授業をしています。いつもと違う学校、違う教室、お客さんがいっぱい。そんな中で、本当にいつものようにできるのでしょうか、心配です。

1. 題材について

子どもの周辺には様々な遊具があり、その種類と数は膨大なものである。しかし、それぞれの遊具は遊びの機能そのものが単一化され、子どもの遊びまでが規格化され、画一化されてきている。この題材「立体迷路」は、着想(インスピレーション)と想像(イマジネーション)の遊びであり、遊びを作り出し、遊ぶことによって創造力が養われる、楽しい遊形活動である。

2. 本時のねらい(3/3)

- ① 立体の面と面とのつながりを考えた迷路作りができる。
- ② 立体を上手に組み立て、自分の作品や友達作品に挑戦してみる。

3. 本時の展開

児 童 の 活 動	指 導 の メ モ												
○前時の復習と本時の活動の進め方を理解する。 ・迷路の書き方の工夫や注意を思い出す。	・面と面とのつながりをよく考える。 ・分れ道の作り方を工夫する。 ・見やすくはっきりと書く(道を太目に書く)。												
○立体の上手な組み立て方を考える。 ・折れ線に合わせて正しく折るにはどうしたらよいかを考える。 ・ボンドのつけ方はどうするかを考える。	・折れ線に定規を当て、カッターの裏刃などで折り目をつける。 ・適量をはじまでつけて、少しかわかしてから重ねる。												
○迷路書きと立体の組み立てをする。 ・他の人の良い点を見て、自分なりに生かす。	・上手な人の良い点を指摘する。 ・慎重に作業する。												
○完成した立体迷路で遊ぶ。 ・自分や友達作品に挑戦してその面白さを味わう。 ・迷路審査表に記入する。	・迷路審査表を見ながら紹介する。												
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 準備 児童 ・鉛筆 ・定規 ・サインペン ・カッター又は書けないボールペン ・ボンド 指導者 ・大きな展開図 </div>												
	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="3">迷路チェック</th> </tr> <tr> <td>◎○△</td> <td colspan="2">なまえ</td> </tr> <tr> <td>作 者</td> <td>難 易 度</td> <td>楽 し さ</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	迷路チェック			◎○△	なまえ		作 者	難 易 度	楽 し さ			
迷路チェック													
◎○△	なまえ												
作 者	難 易 度	楽 し さ											

分野	描 画
学年	④ 6 年
教室	1 階 北

題材名	人物クロッキー
指導者	帯広市立大空小学校 遠藤 妙子
児童	帯広市立大空小学校 6年3組 42名



プロフィール

生れも育ちも帯広です。新卒で市内の清川小へ、その後稲田小、大空小と現在3校目、教員生活15年目です。低学年の経験が多く、6年生は初めてです。スポーツが好きで、高校時代は陸上部でした。4年生の長男を頭に2男1女の母です。

私のひとこと

私が子供の頃最も苦手だったのが図画工作でした。絵の上手な子をうらやましく眺めていたものです。高学年になるにつれ描けなければ楽しくないという気持ちが大きくなると思います。一人一人が満足できる授業を目ざし勉強したいと思います。

1. 題材について

人と人が組み合わせあったときの、重なりやかたまりとしてのおもしろさをとらえることを主にして、見ることと、描くことが子どもの観察活動の中で結合していくように意図している。

2. 本時のねらい

数人の友達が何かをしている様子をよく見て、組み合わせあった感じがよくわかるように線でかく。

3. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ
<p>○これまでの生活経験の中から、人と人との組み合わせた形を想起し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達が学校でしたことや見たことについて。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合わせることによって、人と人との組み合わせの形に関心を持たせる。
<p>○本時の学習内容を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人との組み合わせた形をかくこと。 ・どのようなことに気がつけたらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな組み合わせをどの様にかいたら、うまくかけるか考えさせる。
<p>○教科書を見ながらどのように表したらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の人を1つのかたまりとしてとらえる。 ・それぞれの人の頭や足の位置に気をつける。 ・それぞれの人の動きや全体の動きに気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見せながら、どの様なことに気がつけたらよいか話し合い、その中で特に気をつけることがらを板書する。
<p>○学習のめあてを考えながらモデルをスケッチする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の見方を大切にしながら描写させる。
<p>○友達作品を鑑賞する。</p> <p>○次時の予告。</p>	<p>- 準備するもの -</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童 ・わりばしペン ・用紙 ・墨汁 ・がぼん

分野	デザイン・工作
学年	㊦ 3・4 (複式)
教室	1 階 南

題材名	染めて遊ぶ(草花の汁を使って)		
指導者	清水町立人舞小学校	岡本 真一	
児童	清水町立人舞小学校	3・4年	9名



プロフィール

教育大函館分校を卒業し、昭和43年十勝に来ました。足寄を振出しに、音更、油田そして現在の清水町人舞小学校は4校目になります。はじめ複式に戸惑いましたが、今は児童と新校舎ではりきっています。造形サークルには池田小の時、入りました。

私のひとこと

豊かな自然や小人数の長所を生かし、地域の条件や生活を基に造形活動を通して物を見つめる目と心を育てる指導のあり方を校内研で進めています。その中で、創造の喜びを与へ自信をもたせ、自己主張のできる子どもたちへと、願っています。

1. 題材について

日常見慣れている飼料袋の形を生かしてのはっぴ作り、身近にある草花から汁を取り、和紙に染める。そして、その模様をはっぴに飾るという学習を計画した。この学習を通して、子どもたちが目や手をはたかせ、造り出す喜びと同時に技法を生かして取り組めたという喜びと秋の「人舞小祭り」という行事と関連させ、幅の広い造形活動の楽しさを味わわせたい。

2. 本時のねらい

- (1) 染めた紙を使って、工夫して飾り、楽しいはっぴを作ろう。

3. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ
○準備を確認め、前時までの学習を思い起こし話し合う。	○染め紙・はっぴ等を準備して机にならべておく。
○本時の学習の目あてを知る。 (染め紙を切ったり、はったりして、楽しいはっぴを作る。	○アイデアスケッチは、あくまでも参考であり、その通りいかななくてもよいことを理解させる。 ○自分の考えにあった染め紙を選ばせる。
○アイデアスケッチをもとにはっぴに染め紙をはる。 ・配色を考える。 ・染め紙をいろいろな形に切る。	○用具の使い方を理解させる。 ・カッターナイフの使い方 ・はさみや接着剤の使い方
○配色を考えながら模様のよさが引き立つようにはる。	○色や形などの組み合わせも考えさせる。 ○たくさんつけすぎないようにさせる。
○全体のバランスを考え、仕上げる。	○作って着てみるの感想や飾り方、使い方、美しさ等、話し合わせる。
○お互いに着て、よい所を話し合う。	準備 児童…はさみ、カッター、接着剤、定規 染め紙、はっぴ 教師…染め紙、和紙、草花の汁、接着剤 両面テープ

分野	描	画
学年	㊸ 1 年	
教室	3 階 南	

題材名 人物クロッキー
 指導者 帯広市立第六中学校 影山美香
 生徒 帯広市立第六中学校 1年1組 35名



プロフィール

昨年、北海道教育大学旭川分校を卒業しました。自分の未熟さを生徒の良さでカバーしてもらっている新米教師です。今回このような機会に恵まれ、勉強させてもらうつもりで取り組んでいます。

私のひとこと

自分が絵を描いていく中で味わった楽しさや喜びを、生徒にも味わってほしい。また私自身も新たな発見の喜びを味わいたいという気持ちで日々授業に取り組んでいます。美術を通じて、満足感や達成感といったものを味わってほしいと思います。

1. 題材について

生徒の発達段階から考えて、観察力はかなり進み自分の描写力不足に気付き表現に対する意欲を失いがちになっている。客観的に自分を見る力が育ってきた今の時期こそ、自分の可能性を引き出すため様々なことに挑戦し、自分なりの方法を発見する喜びを味わってほしい。クロッキーという題材を通じて、色々な画材、技法にふれ、表現の工夫をさせたい。また、この活動が日常生活につながることを期待しこの題材を設定した。

2. 本時のねらい(3/4)

- ㊸ 人物をかたまりとしてとらえ、その量感をつかむ。
- ㊹ 人物の持っている動きの美しさをみつける。
- ㊺ 人体各部の比率(プロポーション)をつかむ。

3. 本時の展開

児童の活動	指導のメモ	
○クロッキーの特質について復習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を整理する。 ・具体的に何をを見つけようということにはふれず、あくまでも生徒の考えにまかせ、関心をもたせる。 ・抽象的な形からポーズを発見させる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) かたまりのポーズ～量感の発見 2) 動きのあるポーズ～動勢の発見 ・全身を大きなひとつのかたまりとしてとらえ、全体の動きを見ることに気付かせる。 ・ポーズは「かたまり」のポーズと「動き」のあるポーズとする。 ・生徒数名の作品をOHPに映し良く描けている作品の共通点をあげるという形で進める。 ・動きのあるポーズの中からプロポーションを発見させる。 ・美術に限らず、発見することの楽しさ、自分なりの方法をみつけることの喜びに気付かせ、今後の意欲づけをする。 	
○本時の学習内容について予想する。		
○各自、紙と墨と筆で思いのままに「かたまり」の形、「動き」のある形を描かせ、ポーズの発見をする。		
○描く前に、全身を画面にきちんと入れるには、どうしたらよいかを考える。		
○発見した2種類のポーズをクロッキーする。		
○2つのクロッキーを比較し、気をつけなければならない点について考え、各部の比率について着目する。		
○人体各部の比率(プロポーション)について学習する。		
○クロッキーの目的について学習し、日常の中からの発見、気付くことの大切さについて考え、今後の学習に関心をもつ。		
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 準備するもの ・生徒 ・墨汁・筆ペン ・画用紙 ・教師 ・OHP ・資料 ・スクリーン ・コピー機 </div>

分野	版	画
学年	①	1年
教室	3	階南

題材名	自画像(凹版画)
指導者	幕別町立札幌内中学校 根岸 邦昌
生徒	幕別町立札幌内中学校 1年C組 30名



プロフィール

- 1958年 釧路生れ。
- 1980年 日本大学芸術学部卒業。
- 1980年 十勝管内陸別中学校着任。
- 1987年 幕別町立札幌内中学校赴任。
- 2018年 十勝で退職したいナ……。
- 現在、愛妻1名、愛犬1匹、愛車1台

私のひとこと

あらゆる物事の価値観が多様化している今、週一度だけの子供達との出合いを大切にすることで、感動する心をひとつでも多く持たせたい。また、「美しいものを美しい」と言える、素直な心の芽を育てる、よき助言者でありたい。

1. 題材について

版画の魅力は、他の絵画技法では得られない独特の表現効果によって、イメージを構築できることにある。更に、版種の壁を越えることにより、表現の可能性を追求させたい。また、自画像作品により、自分の心の中まで素直に見つめさせたい。

2. 本時のねらい(7/10)

- 1) 製版に使用する道具の特性を理解し、効果的な表現力を養わせる。
- 2) 試し刷りによる。刷りの技法・手順を理解させる。
- 3) 作品に対して意欲的に、取り組む態度を養わせる。

3. 本時の展開

生徒の活動	指導のメモ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の製版の状態と本時のねらいを確認する。 ○ 顔の明暗・質感・立体感を観察し、彫刻刀、ニードルを使い線彫りによる細部表現をする。 ○ ろうそくやクレヨンの水の反発作用を理解し、明るくしたい(絵の具を付けたくない)部分に描画する。 ○ 刷りの手順を知り、班ごとに協力して試し刷りをする。 ○ 班ごとに試し刷り作品を鑑賞し合い、効果的な表現・工夫されたポイント・失敗の原因・改善点などを話し合う。 ○ 次時の課題を見つけ、後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時に使用する持ち物・用具について確認させる。(安全な製作をするために) ○ ニードルのタッチの粗密・深淺・長短・方向・直線曲線についての効果を知らせる。 ○ 下絵の線は参考程度に考えさせ、鏡の中の自分を観察させる中から、思い切って線彫りさせる。 ○ クレヨン等も、タッチを生かした効果的な表現をさせる。 ○ 刷りの流れを提示し、説明する。 ○ 絵の具の乾燥が早いので、手早く作業をさせる。 ○ インクのつき方により、刷りの効果が変わること気付かせる。 ○ 班ごとに協力して後片付けをさせる。
<p>---準備(生徒)---</p> <p>彫刻刀・クロッキーブック・4B鉛筆・軍手 布片・クレヨン・新聞紙</p>	<p>---準備(教師)---</p> <p>プレス機・ニードル・スキージ・刷毛・絵の具 和紙(鳥の子)</p>

分野	工 芸
学年	㊦ 2 年
教室	2 階 北

題材名	輪つきスプーンの製作	
指導者	帯広市立大空中学校	工 藤 良 三
生徒	帯広市立大空中学校	2 年 1 組 41 名



プロフィール

昭和44年、北海道教育大学釧路分校卒業。神奈川県三保中学校で教師生活出発。
昭和62年、帯広市立大空中学校へ赴任、現在に至る。

私のひとこと

今回、授業をおこなうことになりましたが貴重な御意見や御指導をいただき、収穫の多い大会となるよう望んでおります。

1. 題 材 「輪つきスプーン」の製作

最近、木に触れたり、それを材料に物を作ったりする機会が少なくなっている。木工芸を通して木材特有の適度の抵抗感、手のひらから伝わってくる木の暖かさや年輪模様の造形美を知ることが、今の中学生の感性に答える十分な材料といえる。今回、一つの木から輪のついたスプーンを彫り上げる、そのおもしろさとスプーンから輪が離れるときの満足感を味わわせ、更に木材のもつ、性質、良さを製作を通して知らせたい。

2. 本時のねらい(5/9 時間)

- (1) 輪つきの部分の構造を理解させ、スプーンと輪の部分のけずり出しの製作をさせる。
- (2) 用具の正しい使い方を身につけさせる。

3. 本時の展開

生徒の活動	指導のメモ
○輪つきの部分の構造を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの木からスプーンと輪部分を切り離すという最大のねらいを成功させるため、作品例などを通し、輪の部分の構造を理解させる。 ・用具の正しい使い方を指導する。 ・あせったり、無理をして輪を破損させないように慎重に作業させる。
○どの部分をけずり出せば、スプーンと輪が切り離れるか理解し、けずり出しをする。 ・キリ、彫刻刀を使って作業する。 ・キリを使用する時は、木工万力に材料を固定する。	
○スプーンと輪の部分が離れたら輪の部分の形を整える。 ・切出し小刀、彫刻刀、木工ヤスリなどで作業を進める。	
○本時の反省	
	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の報告 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">準 備</p> <p>(生徒) 材料、彫刻刀 スケッチブック、軍手 (教師) キリ、木工万力 木工用弓のこ、作品例 木工用ヤスリ、切出し</p> </div>

分 科 会 構 成 一 覧

種別	区分	領 域	発 表 者	校 名	司 会 者	校 名	
幼保	A	造形活動	杉 崎 珠 美	(十 勝) 共栄台幼稚園	佐 野 ひとみ	(帯 広) 北保育所	
小 学 校	B	造形あそび	水 野 守	(帯 広) 大空小	貝 出 嘉 祥	(帯 広) 広 陽 小	
			伊 藤 久 栄	(旭 川) 神 居 小	飯 塚 礼 二	(旭 川) 末 広 小	
	C	絵 画 (描画)	大 石 勉 也	(十 勝) 御 影 小	荒 井 正 春	(十 勝) 北 居 辺 小	
			永 井 恭 子	(札 幌) 平 岡 小	佐 藤 靖	(札 幌) 篠 路 北 小	
	D	彫 塑 (立体)	小 園 木 省 一 郎	(帯 広) 花 園 小	佐 藤 忠 司	(帯 広) 川 西 小	
			中 島 欣 也	(釧 路) 霧 多 布 小	三 枝 佑 嘉	(釧 路) 芦 野 小	
	E	デ ザ イ ン 工 作	堀 井 と も み	(帯 広) 啓 北 小	和 田 浩 司	(帯 広) 開 西 小	
			徳 田 幸 次 郎	(苫 小 牧) 豊 川 小	宮 森 俊 治	(苫 小 牧) 北 光 小	
	中 学 校	F	平 面	斉 藤 卓 三	(十 勝) 池 田 中	斉 藤 隆 博	(十 勝) 鹿 追 中
				光 岡 光 彦	(オホーツク) 佐 呂 間 中	長 谷 川 正 司	(オホーツク) 留 辺 薬 中
G		立 体	中 村 俊 昭	(帯 広) 南 町 中	丸 谷 雄 次	(帯 広) 第 一 中	
			岡 澤 邦 彦	(札 幌) 屯 田 中 央 中	多 田 絃 一	(札 幌) 柏 中	



音更町共栄台幼稚園

杉崎 珠 美

幼児が創造のとりこになれる環境、友達関係、そして素材にはどんなものがあるかを考えよう。

1. はじめに

子ども達は、本来、いつでも想像の生活の中で、創造のとりこになって、生きられる不思議な能力をもっています。しかしながら、マスメディアの影響もあってか、年を追って創造する意欲のとほしい子ども達が増え続けている傾向にあるのも事実のようです。

そこで、昨年、テーマに添って取り組んだ活動を通して、子ども達の活動過程や、内容・興味・関心を回想してみたいと思います。

入園以来8ヶ月が過ぎ、年少組3才児の子ども達も、粘土遊びや砂遊び、そして新聞紙遊びに空き箱工作等々、色々な素材を利用した遊びを経験しました。

秋の遠足や登山も終え、自然に興味を持ち始めた11月末頃の活動でした。身近にある材料と自然の木の实等を組合せ、バッチャや、ブローチ、ペンダント、首飾り等、身に付けて遊ぶアクセサリー類を楽しむことになりました。年中組や年長組の子ども達も一緒に活動を楽しむことができるように、材料や場所、時間を設定し、これらの遊びを通して異年齢でも上手に助け合い、その中でお互いが育ち合えることを期待し、ねらいを2つにして取り組んでみました。

2. ねらい

- 身近な素材と自然の木の实等を組合せ工夫しながら造る、美しさを味わう。
- 異年齢とかかわりながら、個々の創造力を認め、更に協力し合える仲間関係を育てる。

3. 実践例(年少組18名、年中組35名との合同活動)

○準備するもの

〈材料〉 松かさ、くる実、どんぐり、ひまわりの種、松かさの実、ビーズ、ストロー、ゴムひも、ピン、紙粘土、木工ボンド
手芸ロープ、手芸リング、ビニールテープ、虫ピン等。

〈道具〉 紙やすり、つまようじ、金づち、はさみ等。

○活動過程

3才児の子ども達は前日から、コンクリートで出来ているスロープの上や紙やすりで松かさの実を擦り、中の実をほじって出し穴をあける遊びをしました。早くほじり終えた子ども達は、どこで覚えたのか指と指との間に実をはさんで笛のように音を出して楽しみました。又指先の力が弱い子ども達は、なかなか思うように穴があかず、途中で

「できない」「あかない」等と弱音を吐き、活動が中断しそうな子もいましたので、その活動の状態にあわせて保育者も入り、励ましの言葉をかける等側面から援助をしてみました。又、首飾り等にも使えるよう保育者が最初から片方だけ穴をあけておき、もう片方を子ども達があけると筒状になり、ゴムひもに通せるようにと材料にも配慮をし活動が継続される中で楽しめるようにしてみました。やがて3才児は首飾りに興味を示し、全員が作り始めました。ビーズの配色やストロー、松かさの実を通す間隔等は、個人差はありましたが、以外と一人ひとりが上手に、真剣に考え取り組んでいました。

ただ3才児の2、3人の子も達がゴムひもを通し終えたところで、首飾りになるよう輪にしようと片端だけを持ち上げたところで、材料が全部ぬけてしまい、中には2回も最初から通し始める根気強い子がいて、興味のある遊びへの挑戦意欲が素直に表われているのを感じました。

又、この活動に入る前から、比較的年齢に関係なく男の子には身に付ける、アクセサリ的な遊びには、関心が薄いのではないかと不安は多少ありましたが、こちらの心配をよそに、3才児の場合は、むしろ女の子よりも男の子の方が出来上がった時の喜びは、大きかったようです。

4才児は、首飾り、ペンダント、バッチ、ブローチ等、色々作りましたが、やはり、全員とはいきませんが、自分の表現を早くまとめたり、手順が早かったりと、割にスムーズに作り、出来上がった首飾りを頭につけておどけたり、腕につけて眺めたり、丁度何かの主人公の役にでもなったようなポーズを取り、想像の世界を楽しんでいるようにも見えました。松かさで作るペンダントも小さなビーズの飾りがきれいで、3才児は、さっそく、手芸リング、松かさ、手芸ロープを用意し、4才児のまねをして作り始めました。早い子は首飾りとペンダントの両方を身に付一日中得意そうに遊び回っていました。自然のものや身近な素材を利用しての合同遊びでしたが、保育者が想像していたよりも、はるかに、子ども達にとっては興味深い遊びのようでした。

4. 成果として

ビーズやストローの長さ、形、色には、ほとんどの子ども達が執着し、更に造る過程で配色や配列を工夫する等、拡散部分と集中部分との思考状態が活動の中に意欲的に交互して表われ、色彩感覚を味わい養うのには、比較的楽しい遊びでした。

5. 今後の課題

自然の木の実を加工する過程で、根気強さや、助け合いがなければ十分に楽しめない遊びなので、個々が納得いく作品が出来るよう、又友達同志協力し合えるよう、更に仲間意識を高め、その中で助言のあり方をさぐっていきたいと思いました。

大空っ子フェスティバルをメインにした 豊かな感性と表現力育成の取り組み



帯広市立大空小学校教諭

水 野 守

1. はじめに

この実践発表は私たちの学校で三年間にわたって取り組んできた研究の一部分であります。当分科会（造形あそび）にふさわしい内容であるかどうか疑問ではありますが、大会研究部の強い要請を受けて発表することになりました。

2. 実践の概要

(1) わらい

帯広市の郊外に位置し、畑作地帯の真ん中に造られました大空団地も造成以来20年を経過しました。大空小がこの研究に取り組み始めた三年前は1,400名を超える在学児童をかかえた全道一のマンモス校でありました。小学校区の子どもがそのまま一つの中学校へ進学という特異性のある学校でもあり、ややもすると惰性に流れがちな雰囲気でありました。

表現力に満ち溢れ、生き生きと目を輝やかす子どもを想定し本校の研究テーマを“心をゆり動かす教育の創造”豊かな感性と表現力のある子どもの育成—とかけ研究のスタートをきりました。

(2) 実践計画

研究の窓口を国語科・音楽科・図工科の三教科とし、教師集団を三等分にし実践に取り組みました。

(3) 図工科の実践計画

図工科の実践では

- ① 楽しい図工科の授業を目指した授業研究（物語絵を中心に）
- ② 日常的な表現活動の取り組み（造形あそびとのかかわり）
- ③ 三教科一体でつくり上げる大空っ子フェスティバルの実践の三つの柱を立てて共同研究を推進してきました。

(4) 日常的な表現活動の取り組みについて

① 学級シンボル旗づくり

学級や学年、全校行事に活用する学級づくりが新担任と子どもとの初仕事となります。低学年はともかく、中・高学年ではアイデアの出し合いから製作の総てが年々子ども中心になりつつあり運動会での行進が目玉的となってきています。

② 全校野外写生展

大空っ子フェスティバルと一体となり、グラウンド周囲のフェンスを利用した全校野外写生展も昨年からは実施しています。地域の人たちも、この壮大な野外展に目を見張っています。

③ 卒入学式の会場装飾



卒業式会場のかざりつけ



1,200人の子どもの手形の輪
作業風景



大空っ子フェスティバルより

小学校での二大行事、卒入学式の会場装飾も、子どもたちの手に委ねています。鳥をテーマに、花をテーマにと年ごとテーマを代えてステージから会場周囲を造形作品で埋めつくします。

④ 正面廊下壁面の展示

“玄関は顔”と言われます。この正面廊下の装飾も子どもたちの仕事です。全校自画像展、全校手形の輪、全校詩画展、学級旗紹介など楽しい作品が並べられ、毎日登下校する子どもたちもPTAの父母たちも、来校のお客さんも立ち止まって見てくれます。

⑤ その他の表現活動

ビックアートコンテストに挑戦（全道で優秀賞受賞）したり、玄関前のアスファルトをキャンバスにチョーク絵を描かせたり、いろいろな機会と場所で子どもたちに表現の喜びを味わわせたいと思って取り組んでいます。

⑤ 大空っ子フェスティバルの実践

年に一回地域に飛び出して思い切り表現の楽しさを味わう大空っ子フェスティバルは、子どもたちの心に残るビックな祭りです。

国語グループの担当する大空ジャンボクイズ、音楽グループでは音楽表現、そして、図工グループの担当する学年別造形表現は、パレードでフィナーレを飾り地域の人々から大きな拍手を浴びます。造形表現は教科課程に位置づけ図工科の時間に製作します。



大空っ子フェスティバルより

- 1年～ふくろの顔・楽しい帽子
- 2年～箱のお面
- 3年～紙のファッション
- 4年～箱の大蛇
- 5年～ダンボールの顔(楕)
- 6年～まとい

3. 実践のまとめ

(1) 成果と課題

ここに一つ、大空っ子フェに参加したお母さんの感想を載せます。

※…前略… 気球がありました。ありましたノ雄大な姿を目前にして再び胸は高鳴りました。ガスの炎と共に大空に舞い上がり、それを取り囲んでの爽やかに心に響く全児童の大合唱…中略… 去年に引き続き楽しい趣向をこらした問題のウルトラクイズ。学年に合わせたそれだれの子どもの力作による造形表現、グラウンドのフェンスいっぱいの全校写真展の壮観さ。どれを取っても魅力あふれた取り組みに…後略… 嬉しくありがたく感謝と敬意の数時間でした。(2年生の母親)

確かに子どもたちは変質しつつあります。明るい顔が増えました。非行が少なくなりました。新しいジャンルに挑戦する意欲が増えました等と声が聞かれる様になりました。私たちは、この実践の経過をふまえ、更に子どもたちの心の中に入り込み、子どもに感動を与える試みを積み重ねて行きたいと思っています。

教師主導型との反省の声を克服して、ひとりひとりの子どもが主体となった全校的なうねりに高めるために更に検証と研究を継続させなければなりません。



加川市立神宮小学校教諭

伊藤久栄

1. 領域のおさえ

子どもが、自分の意志によって“つくる心”を全身的な活動を通して表現している。ここには、子ども特有の柔軟な思考力や創造性が育っているといえる。

子ども達の遊びの中には、知らず知らずのうちに身につけていく造形的な表現活動のさまざまな姿を見ることができる。

これらの時間的、空間的表現の行為や行動の経過を新しい造形教育の視点から見なおしていくことが、豊かな人間の心を育てたいと願う造形教育の方向である。

このような意味から、造形的な欲求を満たす自由な活動としての、「造形的な遊び」は、単に教育内容の精選や基礎教育の視点からだけとらえるのではなく、子どもの主体的な学習を保障する場、人間形成の場として見つめる必要があると考える。

2. 造形的あそびと材料

人工物や自然物、造形的あそびの材料は豊富であるが、「何が子どもの活動を喚起するのか」を見きわめる必要がある。なかでも、土・砂・新聞紙などを使っての全身的な遊びは、子ども達に喜ばれる。

造形的な遊びの活動内容（視点）としては

- 全身的な遊び
- 材料から思いついた遊び
- 構成的な遊び

に、分けられるが、別々にするという意味ではなく、このような種類の活動が考えられるということであろう。

また、具体的に造形的な遊びをさせる場合、おさえておかなければならないことは

- どんな材料（素材）で
- どんな場所で
- どんな遊びをさせるか

を、おさえて授業を進めていくことになる。

主なものをあげてみた。

材 料 や 場 所	活 動 内 容
◎砂・土・水・雪・粘土	○全身的な遊び ・ほる、つむ、つくる ・つなげる、ひろげる
◎グラウンド	
◎ダンボール	○材料から思いついた遊び ・並べる、つむ ・あなをあける ・つなげる
○あき箱、あきかん	
◎新聞紙など	
○木の葉	○構成的なあそび
○石・つみ木	

◎子どもが意欲的に取り組み、多くの可能性をもった素材と活動

3. 造形的な遊びの交流・発展

造形的な遊びの考え方は、低学年で終わるという性質のものではない。遊びのかたちで示されているのは低学年だけであるが、高学年にも発展されるべきものである。高学年では、全体の見通しをもった計画性のある内容として取り組まれるべきであろう。

また、造形的な遊びを通して、他の学級・学年、そして全校的な取り組みへと発展させていくことも可能である。

ねらいや位置づけの上でちがいはあるが、活動としてはすでに実践している学校もいくつかある。

旭川では、全校的・学年的行事の中で行われる「夏まつり」「冬まつり」「集会活動」などで、一つのまとまりのある活動として造形的あそびが多くとり入れられている。



観察を通じた構想画の指導（4年）

- 見上げた木の上で -



上川郡清水町立御影小学校

大 石 通 也

プロフィール

図工指導に興味をもち、あっちこちの研究會に首をつっこむ様になって、かれこれ20年近くになった。全道大會には、校別、滝川、帯広と、3年続けて十勝の発表者として参加させてもらった。いつもこれといった発表ではなく、日頃の教室でのささやかな実践をまとめて嬉しさ半分、いやいや半分の気持ちで参加したのが正直なところである。

ある先輩から、望ましい絵の指導者は、日々清新な「心」の教師でなくてはならないと教えられ、それに近づこうと日々頑張っているが清新な「心」を子ども達に転移するまでに至ってはいない。

日々清新な心をできるだけ持ち続け、今後も図工指導に頑張っていきたいと思う。

はじめに

私の通う学校は、畑作と酪農を中心とした農家の子と、小さな市街地の子が通う全校生189名、6学級の小学校です。学校の周りは住宅と夏は、はすの花が咲き、冬は400㎡のスケートリンクと変わる人造の池があり、日高山脈を近くに仰ぐことができます。

四季折々に変化する木があり、山もあって自然環境には大変恵まれています。校舎は、新築して3年、校庭もまままあ広く、子ども達は思い切ったのびのび遊べる環境にあります。

さて、私の学校のグラウンドの中心よりややはずれに樹齢……年、歴史の古い柏の大木がどっしり大地に根をおろし、夏はうっそうと葉を繁らせ、その木陰は子ども達の語らいの場として大切な木陰です。

四季に応じてこの大きな柏の木が微妙な変化を見せ、この学校に通う先生や子ども達といつも一緒に育ってきて、言わば友達でもあるグラウンドの木に子ども達が登ることができて、自由に遊ぶことができ、木と語るができたらどんなに楽しいか考えたことが、この教材を設定する基になりました。

木の葉がまだ大きくならず、また、新緑の美しく幹や枝の形の見やすい春を選びました。

○観察の手だて

○子どもへの問いかけ・その1

〈大きな木を見上げるとどのように見えるだろうか……〉

① 形

- ◆子どもに意識して描いて欲しいことから
 - ・根元は太く、梢になるほど細く小さく見える。
 - ・枝は幹から周囲に放射状に出ている。
 - ・葉は幹や太い枝から直接出ていない。

② 色

- ◆それぞれ色数を数えるのに具体的な条件をつける。
 - ・3色以上見つけてメモしなさい。
 - ・5色以上見つけてメモしなさい。

③ 下がき

木の形や色の観察によるスケッチやメモを参考にして、画用紙に見上げた木を描かせます。

白い画用紙に鉛筆で描かせてもよいが、量感や力強さが出やすいと思い、油性のサインペンを使わせます。

○子どもへの問いかけ・その2

〈木に登ってどんな遊びができるだろう……また、木の上で遊んでいる自分や友達はどのように見えるだろう……〉

- ・クロッキーで描かせる。
- ・下から見上げている人だという意識を子どもに持ち続けさせる。

○観察から構想へ

できあがったスケッチをもとに木の上で遊んでいる子ども達の様子を木を描きこんだ画用紙に描きこませる。

① 構成上の注意

- ・人物が大きすぎたり小さすぎたりしないこと。
- ・人物の数、描く位置をよく考えてから描きこませる。

② 着彩上の注意

- ・観察をもとに色を作る。
- ・遠くのものからぬる。〈無理なく重ねられる〉
- ・濃い強い色は後でぬる。〈にじむと汚い〉

あとがき

木のスケッチ、人物のスケッチともあまり時間をかけると子ども達が初発の感動を失いやすくなるので、短時間でリズムカルに行うことが必要だと思います。

与えられた環境をできるだけ教材に生かそうとする姿勢を忘れずに持ち続けたいと思います。

納得いくまで追求し、生き生きと表現できる子をめざして

—高学年の絵画領域での実践から—



札幌市立平岡小学校教諭

永井 恭子

1. はじめに

現在子どもたちを取りまく社会状況は、必ずしも心身共にのびやかに育っていくのに適しているとは言えません。科学技術の進歩は各家庭のすみずみまで及び、機械化・合理化による生活用式の変化は、生活体験の範囲を狭め、手や体や知恵を働かせなくても何とかなる便利さの中に子どもを埋没させてしまいました。そのことが子どもにとって楽しいはずの造形的な表現活動においても、描いたりつくったりすることにあまり興味や関心を示さない子や、粘り強く追求しやり通す活力のない子を生む土壌となっているのではないのでしょうか。

そんな子どもたちに、納得いくまで追求し、表現する喜びや描く楽しさを十分味わわせたいと考えこの実践に取り組んでみました。

2. 実践の概要

(1) ねらい

学級の2/3くらいの子どもが絵がきらいだと言っている現状を何とか打破し、描くことを好きにし、楽しみながら描けるようにすることを第1歩と考えました。そこで、まず、この子どもたちが絵をきらい原因をさぐってみました。それをまとめると次の三点になります。

- ・低学年の頃と違ってものを客観的に見ることができる年令になっているので、こう見えるからこう描きたいという意識と自分の描く力に大きなギャップがある。
- ・概念的な形、漫画的な形にとらわれ、そこから脱出できないでいる。
- ・混色、筆使い、線描きなど基礎的なものが身につかないままに高学年になってしまっている。

このような事が積み重なり、いいかげんな絵しか出来上らない、その作品を見てまた嫌になるという悪循環を繰り返して来たように思いますので、この三点を乗り越えさせることに重点を置いてみました。

(2) 計画

写生会の絵やお話の絵など10時間から12時間もかける大作へ行く前に、小さなトレーニングを1日の学校生活の時間内に位置づけて取り組ませることにしました。朝の10分間線描きトレーニングと彩色トレーニングを組み合わせながら実践を積み重ね、大きな作品へつなげていこうと考えて出発したのです。

- ・4月～5月

自然の中から取材して線描き、彩色トレーニングをして6月の写真会へつなげる。

・7月～9月

人物を中心に線描き、彩色トレーニングをして10, 11, 12月の働く人の絵や、版面につなげる。

1, 2月のお話の絵は1, 2学期の集大成と考えて取り組ませることにしました。

13) 実 践

(朝の10分間線描きトレーニング)

16切, 32切くらいの小さな画用紙を教室の棚に常備し、鉛筆、フェルトペン、ボールペン、わりばしペンなどを使い、毎朝10分間スケッチに取り組ませました。ふきのとう、木の芽と枝、樹の幹と枝の関係、丘と原っぱの広がり、建物の重なりなど描くものを変化させていきます。これは、ふだん何気なく見逃しているものや細かいところにも目を向けさせ観察力を育てるのに大きな役割をはたしてくれました。2週間もすると、どこちなくたどたどしかった線も自信に満ちた線に変化していきました。これは、毎日根気よく実施すること、10分以上しないことが大切です。

(彩色トレーニング)

線描きに慣れてきたら、小さな絵に色をつけてみることも大事なことです。葉は緑、樹の幹は茶色と決めてしまっている子どもの概念的な考えを直していくことが良い絵につながっていきます。例えば、光の当たっている所と当たっていない所の色の違い、芝生の緑と森の緑の違い、広葉樹と針葉樹の違いなど子どもたちの発見につながって色づくりをしていきます。一日の学習が始まる前に絵具を用意し、20分位で切り上げます。

3. 実践のまとめ(成果と今後の課題)

このトレーニングは、毎日毎日の小さな積み重ねで成り立っていますが、回を重ねるうちに驚くほど子どもたちが変わってきました。小さなことも見逃さない確かな目が育ち、自分も描けるんだという自信がついてきたのです。そのことが子どもの意欲を引き出し、作品を大切に完成させる力につながっていったように思います。5年生の初め頃は教師に引っぱられていやいや取り組んでいた子どもたちが6年生では自分たちが納得いくまで追求するということまで変化してきたのです。このものを見つめる確かな目は、理科の観察や作文などの中味をこいものにし、さらに他教科の取り組みの姿勢に大きく影響していったのは収穫でした。今後は、今まで身につけてきたことを土台にして、さらに自分らしい表現ができるようになってほしいと思っています。子どもたちの成長に合った自己表現力が豊かに花ひらいていくことを願っています。



帯広市立花園小学校教諭

小 堀 木 省 一 郎

1. はじめに

本校は、教室の壁を取り払い従来の廊下の部分をも学習エリアとした解放的な教室や多目的広場などに建築上の特徴を持っています。

子どもの特性に応じた多様な学習活動が展開できるオープンスクールの考え方が建築構造として取り入れられています。

学校課題としては、ひとりひとりの可能性を伸ばす教育をめざして、①広いオープンエリアを生かし、高度に組織化された学習環境の構成を図る。②多様な集団構成を試みいろいろな授業法に対応して学習形態を豊富にする。③子どもの認識過程は多様であるから、できる限り一人ひとりの子どもに応じた指導技法を開発する。となっています。

本校教育目標の「人間性豊かな子どもを育成する」を具現化するためにも、一人ひとりの特性（興味・関心・能力・適正等）や学年の特性を生かした多様な学習活動を求めて、授業実践が重ねられています。本単元もそうした考え方に基づいて実践されたものです。その第1は一人ひとりの興味・関心を生かし伸ばすことによって、個性の伸長を図ろうとする「学習の個性化」をめざした学習活動であり、その第2は、一人ひとりの適正や能力に合わせ、教師の意図したねらいを確実に達成させようとする「指導の個別化」をめざした学習活動です。

2. 実践の概要

① 単 元 名：彫塑で表す / 石をほる

② ね ら い

・彫塑は、低学年の粘土遊びに始まって高学年の高度な技法による立体表現まで、そのほとんどが粘土による学習である。

《彫塑で表す》というのも高学年になって初めて使われ、それまでの立体表現学習で要求されていることだけでなく、内的表現を重視したものとなっています。本単元を扱うにあたり、第1のねらいとして、これまでの経験をもとに立体的・想像的な表現の能力を高めるだけでなく、マイナス表現の特徴であるくひとつの塊の中に内在するものを計画的に表現して行くを繰り返すことにより、困難を克服して創る喜びを味わわせること。第2には、表現についての要素（量感・質感等）をより理解させ関心を持たせるために、表現素材のはばを広げて取り扱い、それらの材質の理解とそれに対する技法などの能力を高めさせることとした。

③ 計 画

① 単元目標

ア 一つの塊の形から受けるイメージを生かし、豊かな立体感あ

る表現をする。

イ 材質の持つ特性とそれにふさわしい技法を身につける。

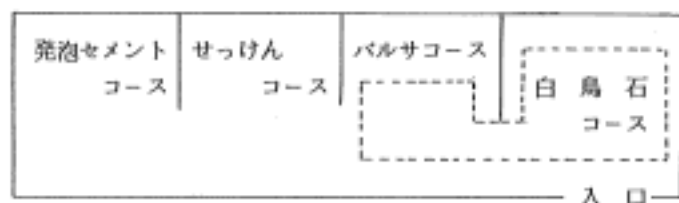
ウ 見通しを立てて、計画的に製作する態度を養う。

ねらいを達成させるために、ひとつひとつの題材を断続的に取り扱うよりは複数の素材を対比させながら集中的に取り組ませ、材料や用具の扱いや基本的な内容の学習経験を繰り返すほうが、より効率的な定着を図れると考え、以下のようにした。

○ オリエンテーション～1時間 〈構想〉を練る	○ オリエンテーション～1時間 〈構想〉を練る
○ 〈表現活動〉～3時間	○ 〈表現活動〉～3時間
○ 〈自己評価と選択〉～1時間	○ 〈自己評価と観賞〉～1時間

④ 指導方法

広いオープンエリアの特性と一人ひとりの特性（興味・関心・能力・適正等）生かした多様な学習活動を求めて、4つの興味・関心別選択コースを設定し、6人で指導にあたる。



① 〈オープン化のねらい〉

- ・ 〈彫る〉ことを通して量感を把握させることが目的なのだから素材は自由であり多くの素材を体験させるという発想。
- ・ 従来の角柱一本を素材にした授業より、選択の巾を広げることに、より強い興味・関心を喚起できる（個性化・意欲の活性化）
- ・ 2種類の直接体験と2種類の間接体験ができる（経験の多様化）
- ・ 教師側から～教材・用具等の準備、専門的な技術の習得などの面からも、教師の協働作業のほうが効率的・効果的と考える。

② 評価（自己評価）

- ・ ひとつの素材を完成させた時点で（1. 計画性 2. 用具の使い方 3. 作品 4. 取り組み方 5. 感想）二度実施。

5. 実践のまとめ

(1) 成果として

興味・関心の喚起（個性化・意欲の活性化）の点からも経験の多様化の面からも目的は十分達成されたと考える。

また、一教師だけで対応しなければならない点（準備、教材研究技術的な習熟等）から見ても、かなり効率・効果的と思われる。

浜中町立霧多布小学校教諭

中 島 欣 也

1. はじめに

霧多布の町は、太平洋につき出た半島の町で、児童の家庭の多くは漁業を営む。6月から始まる「昆布採り」の仕事は、夏をむかえて、最盛期に入る。

5年生の彫塑で表す題材「働く人」を学習するにあたって、題材を考えた時、子供達の身近かでしかも、毎日、一緒に働く父母の姿を表現することが、児童が主体的に取り組めるのに最もふさわしい題材と考え提示した。子供達は「難しいなあ」と言いながら進んで賛成した。

子供達は、よりたしかな表現をするためによく観察してくるとスケッチを試みた。

4年生までの彫塑の学習は「油粘土」を使い、年間2題材である。彫塑く立体で表す学習は、平面に輪郭線で表していく描画の学習とはことなり、運動する立体を奥行きで空間ぐるみ読みとったり、造ったりしていくもので、このような形のとらえ方は放っておいては育たないと言われる。

5年生では、土粘土を初めて使うのであるが、土の性質を知りいろいろな使い方を体得させる中で、おわりには、焼成して、自分の作品を残してやりたいと考える。

少い題材で多くのねらいを子供達に、おしつけることをしないように留意しながら、父母の働く姿を自分の心の目を通して、素直に、表現してくれることを大切に、指導していきたいと考える。

2. 実践の概要

(1) ねらい

- ・昆布をあつかう父や母の姿で、一番父らしい、母らしい場面の体の動きを確かめながら、その特徴をつかんで粘土で表す。
- ・粘土の性質を知り、かたまりに切りこみを入れたり、ひねり出したりして作る

(2) 計 画

第1次 スケッチをもとに、父母の様子を思いうかべて動作化し〈10分〉てみる。

第2次 粘土をねる、ちぎる、ひもにする、くっつける、かたま〈10分〉りにする、ひねり出すなどの基本的な活動をして手の触覚感覚をつかむ。

第3次 卵型のかたまりを作り、頭の部分をひねり出し、へらで

〈60分〉切りこみを入れ、よくしめ、立たせてみる。動作化して
確かめながら作る。

第4次 自分や友だちの作品を見て回り、それぞれどんな工夫が
しているか見つける。

3. 方 法

〈導入・発想〉

- 昆布を扱う仕事にどんな場面があったか、自分は誰のどんな仕事
をしている所か発表し合い、動作化して、体の動きの特徴や体の
どこに力が入るか気づく。
- 自分が一番表現したいものをはっきり決める。

〈表 現〉

- 全体のバランスを考えて人体を作り、動きの特徴をつかんで、大
づかみな表現で作る。
- どこを強調したら力強さが表現できるかを考えて、全体から部分
の表現に入る。
- 作品から離れ、まわりから見て、「これでよいのか」と表現を追
求する。

〈鑑 賞〉

- 自他の作品をよく見て、働く人の特徴や力強さを表すためにどん
なくふうをしているのか、見つけることができる。
- 粘土による表現のよりよい工夫ができたかを見つけてことができ
る。
- 後のしまつをする。
作るのに使った道具は、水洗いし、きれいにし、学習を終わる。

13) 評 価

- 自分の一番表現してみたい形を決め、意欲的にとり組むことがで
きたか。
- 表してみたい仕事の特徴をつかみ、自分なりに工夫して作ること
ができたか。
- 粘土による表現のくふうができたか。
- 自分や友だちの作品をよく見て、くふうしたところを見つけ、作
品のよさを味わうことができたか。



広島市立啓北小学校教諭

堀 井 と も み

1. はじめに

赴任してまもなく、図工の授業をもちました時、子ども達のはさみやのりの扱いが予想以上にたどたどしいことに驚きました。最近の子どもは、刃物の扱いに慣れていないということは事前に聞いていたのですが、自分で引いた線を切るのにも苦勞して何度も切り直す子どもが多く、しかもずい分と時間がかかっているようでした。

造形活動は、作品を作り上げる為に何らかの素材や道具を必要とします。ですから、自由な表現をする為には、扱う素材とうまく関わることが大事です。そこで、今回はその関わり方の一つの例として、はさみの初歩的な使い方に取り組みました。

2. 実践の概要

(1) ねらい

毎日の活動を通して、児童にはさみの初歩的な使い方を身につけさせる。

(2) 計画・方法

一回の作業は短時間で、しかも数回にわたって取り組むことが効果的だと考えましたので、図工の時間だけでなく、朝の活動や中休みの中で進めていくことにしました。使用するものは色画用紙・はさみ。色画用紙には、大きな波線から、徐々に直線に近づく線を一枚に九本印刷しました。

子どもたちはその線の上を切っていきます。色画用紙は各人一枚各班（四人）一色、計八色三十二枚を使用しました。題材名を「大きな虹」とし、切り終えた紙は子どもに手伝ってもらい、随時教室の掲示板に張り出し、共同の作品とします。共同作品としたのは、毎日の作業を、学校の共同作品と結び付けることで意欲を持たせることが狙いです。

(3) 実 践

第一回目は、色画用紙を机に置き、はさみを入れる前にみんなではさみの持ち方・切る位置、紙に添える手の位置、手とはさみの動かし方などについて考えました。子ども達の中からは、今までどういう使い方をしてきたか出してもらい、その中から正しい使い方、注意するところを話し合っていました。最初「こんなの簡単だ」と言っていた子どもも色々と言われた意見を聞くうち、難しい顔になっ

作業を中心

表現しながら技術的
なことも身につく。

できます。話し合いの中で、随分と間違った使い方も分かり、私自身も指導の参考となることが多かったように思います。実際に作業を始めてみると、教室中が一瞬静まり返り、それぞれが真剣な顔で取り組んでいました。また、作業中、注意の行き届かない子どもには個別に助言し、紙の持ち変えなど事前に気が付かなかった所を見つけて指示を加えて行きました。

子ども達の様子では、一般にはさみを使うことが好きなようです。次の日から、自分で時間を見つけて早々と切っている子もいました。

切り終えた紙は、裏にのりを付けさせ、掲示板に張った模造紙の上に張り付けて行きました。今の時点では、大きな虹が七割程出来ています。

3. 実践の過程で

(1) 成果

少しずつ、はさみと紙をスムーズに扱うことが出来るようになってきています。また何かに集中すること、左右の手の供給作業は、工作に限らず、この他のことにも役立つだろうと考えています。

(2) 課題

今後は、曲線から折線へ進み、はさみからカッターへ発展させようと考えています。





苫小牧市立豊川小学校教諭

徳田 幸次郎

はじめに

全道造形研究大会に参加するのは8年ぶり。30回大会では苫小牧の現地実行委員で全道の先生方のご協力をいただいたことをなつかしく思い出します。しばらく御無沙汰いたしておりましたが、今回の大会主題のキーワードや要旨を拝見いたしまして、深める……広げる……などの言葉に苫小牧大会のテーマ「ひろがりと深まりの造形教育を、求めて」が思いおこされてきました。さて、来年は40回大会、苫小牧も新しい企画でと頑張っているところですが、今大会で何でもいから提言ということでしたので、デザイン・工作の範囲で今までとりくんだことを書いてみました。先生方に使ってもらえるところがわずかでもありましたら幸いに思っております。ご意見をよろしく願いたします。

1. 子どもたちをハッチャキにさせる教材アレコレ

(1) 厚紙まきコマ

ラミン丸棒に方眼工作用紙をテープ状にハサミで切って接着しながら巻きつけてできるコマ。ちょっと巻いては回してみたいくなる子どもたち。「よし、もう少し巻くともっと回るぞ!」という意欲をかりたてる教材です。



とちゅうでクギ打ち

 クレヨンで
色つけ

- ・ハサミの技術
- ・厚紙の目(カールしやすい方向)
- ・カールのしかた
- ・エマルジョン系とゴム系接着剤のちがい

(2) 紙トンボとひねり竹トンボ

厚紙のはね、ストローの軸で簡単にでき、どうすれば、どうなるかがすぐにわかる紙トンボ。それがわかれば、うすい竹の板を曲げてできるひねり竹トンボに挑戦してみよう。より高く、より時間がながくと、子どもたちの心をひきつける教材でしょう。



・紙の曲がる方向

 セロテープでストロー
を固定する

0-122 手に
入る。
「開板」
① 刀 e v i
竹と割る?
30分は5分。
カーボン
小刀。

○ 型紙による、
紙の活用

何の教材にするか。

くわ

算数多面体

算数の
多面体

紙を
いろいろよくはつへう
紙の活用

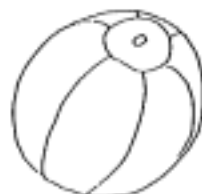


- ・竹を小刀やカッターナイフで削る技術
- ・型紙の作り方
- ・竹を火であぶって曲げる技術
- ・二液性接着剤を知る

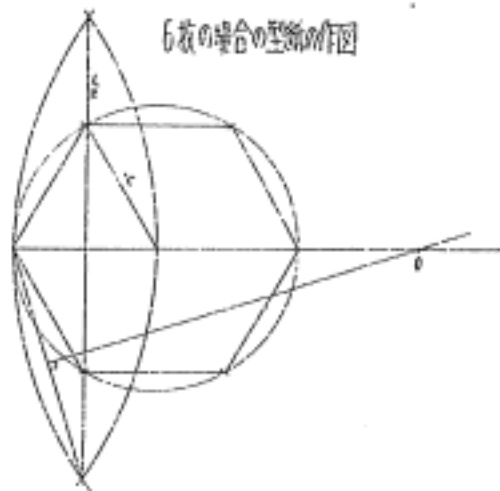
③ 紙風船と熱気球

紙風船を作ってあそぶ。「いくつついていれるかな？」高学年になったら型紙作りも教えてもらって1年生歓迎集会や卒業生を送る会で熱気球を上げよう。

- ・紙を重ねて6枚切る技術
- ・のりつけの技術



6枚の場合の型紙の作図



今までのとりくみの中から一部をピックアップしてみました。なおここに掲げた教材については池本良三氏、森康博氏、高藤徳氏などの実践、現代美術社の教材などからも多く取り入れていることを付記しておきます。私自身がこの機会にさらに新しいアイデアやヒントを得られる研究集会であることを願っております。



池田町立池田中学校教諭

齊藤卓三

1. はじめに

今、生活で使う日用品は、全てお金で入手できます。しかし「手づくりの大切さ」を忘れてはなりません。それは今「子供たちが無器用だから訓練が必要」等の便宜主義からの発想で言うものではありません。

手を動かす・道具を使う・物を作る等は頭脳の働きや認識力の発達を促すことと緊密に関連しています。ですから手の器用さ、しなやかさ等は、筋肉や神経の訓練だけでなく、細やかな感覚の働きや思考を伴い、認識力や精神の働きと関わっています。つまり人間の総合的成長に「手しごと（労働）」は欠かせないものなのです。

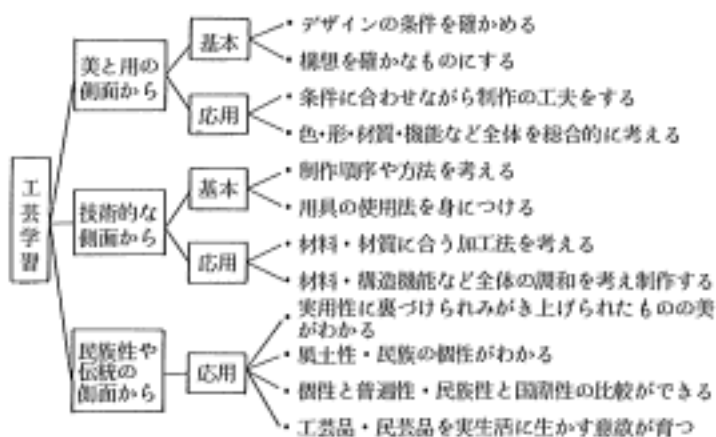
以上の立場から、生徒の生活に近い素材を選びその材料を生かして製作する能力を育て、完成の喜びを味わう機会を多く持たせたいと考えます。各種工芸学習を通じて日用品や用具への関心を深め、伝統文化にふれ、先人の知恵を理解させたいと思います。

皮革製品は日常的なものですが、これを作る仕事は木工作ほど一般的ではありません。それは皮革の癖・特殊な道具・高い経費などの理由でしょうか。しかし、生徒には未知の分野であり、興味と関心を深め主体的に取り組むことを期待して、題材を設定しました。

工芸品の意匠デザインについては、北海道住民の立場で、身近にあるアイヌ文様を学習の核に据えました。生徒のアイヌ民族観を、浅薄な観光サイドのもの以上に深め、さらにこれを機会に人間理解の一助にしたいと考えたからです。

2. 実践の概要

(1) 教材の構造



No.1



No.2



No.3



No.4



No.5



No.6



No.7



No.8



No.9

2) ねらい

- ① 皮の性質を充分理解した上で長く使える小銭入れを完成する。
- ② つい触ってみたくなるような柔らかい凹凸で文様を彫る。
- ③ アイヌ文化に関心と理解を深める。

3) 学習計画 8 時間

- ① 皮革工芸と皮の性質について 1/2 時間
- ② アイヌ文様について 1/2 時間
- ③ 文様作り 1 時間
- ④ 文様を皮に写す 1/2 時間
- ⑤ 文様を彫る 2 1/2 時間
- ⑥ 染色する 1 時間
- ⑦ 仕上げる 1 時間
- ⑧ 相互観賞・まとめ 1 時間

4) 学習内容（以下は別紙「びじゅつだより3号・4号の通り）

- ① 皮革の性質・扱い方について（一斉学習）
- ② アイヌ文様の特徴・呼び名・組み合わせについて実際の模様を示しながら理解を深める（一斉学習）
- ③ 例示のNo.1～9のアイヌ模様の骨格（不完全なもの）をベースにして描き加えをして自分の文様をつくる（個別作業）
- ④ 省略
- ⑤ 用具は謄写版用の鉄筆だけで彫り込んでいく。点の疎密による表現が主体となる（個別作業）
- ⑥ 好みの色のクラフト染料で皮を染める（個別作業）
- ⑦ クラフトレースで2枚の皮片を綴じ込んで仕上げる（個別作業）
- ⑧ 互いに観賞し合って、長所・短所を理解し合う。「びじゅつだより」によって少数民族について理解を深める（一斉学習）

3. 実践のまとめ

1) 成果

- ① はじめての皮革工芸の実習であったため、興味・関心が強く、製作活動は積極的に熱心であった。
- ② 誰もが一応「小銭入れ」の形態まで完成し、多数のものが実際に使用しているなど、生活化の目標は達成できた。
- ③ 少数民族問題に、一歩切り込んだ問題意識をもてた。

2) 課題

- ① 既製のキッドを使用したのが、本来的には大きな皮革からデザインの必要に応じて切り取って使いたいものである。
- ② 用具が「鉄筆」に限られていて、表現活動に不便を感じた。レザー加工の諸用具を何セットか欲しい。
- ③ 少数民族の問題・文化の内容に関心が強まり、今後の学習のきっかけになったと思うが、連続した指導体系は持っていない。

小銭入れの製作（皮革工芸）

日常的に身の回りで使われる調度品や生活用品を作ること、絵を描くことや彫塑作品を作ることと区別して、「工芸」といいます。今回の題材は、工芸のうち皮革を加工する仕事です。義務教育9ケ年間で、初めてで最後の体験になるでしょう。大いに期待してください。

○ねらい

- 1) 皮（革＝かく）の性質を理解して、これを利用し、長く愛用できる小銭入れを作る。
- 2) つい触ってみたくなるようなやわらかい凹凸で文様を作る。
- 3) アイヌ文化に関心と理解を深める。

皮革についての基礎知識

皮＝動物から剥（は）ぎ取って、そのままになっているもの。または乾燥させたり、塩漬けにしてあるもの。

革＝皮をなめし安定した状態になっているもの。

「なめし」とは皮を革に加工する様々な複雑な方法・工程をいいます。

○皮革の性質

皮革の性質といっても、動物の種類、なめし方の違い、厚さ等によって大変複雑です。ここでは、みんながこれから使う「成牛」のタンニンなめし皮（革）というものの性質にしばって説明します。

- 1) 吸水性に富んでおり、適度に湿らせると可塑性がよくなる。
つまり、引っ張ったり伸ばしたり、凹凸をつけたりが楽にできる。
- 2) 湿った状態で一度つけた凹凸は、もとに戻らない。
従って、間違っても爪や鉄筆で跡をつけると、修正ができません。
製作中の取扱には注意してください。
- 3) 吸水性がよいから、乾いた革をそのまま染色すると色むらができる。これをなおすことはできません。ですから革を十分に湿らせてから染色するのがコツです。

アイヌ文様を学ぶ

小銭入れの外側に、模様をつけて飾るのが今度の仕事です。模様は何でもよいようなものですが、今回は、北海道の先住民族であるアイヌの文化から学ぶということでアイヌ文様を学習のテーマとします。

アイヌ文様といっても、地域により全て一様ではありません。そこでかなり大まかな特徴を述べます。

アイヌ文様には、良く「うずまき」が出てきます。これを「モレウ」と言います。またアイウシといわれる「トゲのある括弧文」も基本的なパターンのひとつです。下に代表的なパターンを出しておきます。

モレウは草のつるだとか、波紋だとか、アイウシは魚の背びれからきたのだという議論されていますが、そのように起源を論じても意味がありません。例えばモレウのようなうずまき文は、エジプト・ギリシャから中近東・アジアのあちこちに分布しています。単純に幾何学文様のひとつと考えましょう。

君たちが、この基本パターンを組み合わせて文様を創作できれば立派な

アイヌ模様の基本型



デザイナーです。どうですか？

前ページで基本のパターンを組み合わせで文様を創作しなさいといいました。しかしそれは簡単ではありません。そこで次の方法で文様を作りましょう。下の「A」図はあるアイヌ文様の基本形です。「B」は「A」を肉付けして線を太くしたものです。「C」は「B」を発展させて線や点でうずまき文様がくっきりできるように書き加えたものです。以下「D・E・F」も同じです。



- A 君たちには、別紙で12の文様を用意しました。いずれも、先生がアイヌの人達が作った器物や衣服から、小銭入れの大きさにあわせて拾い出したものです。ただし見たとおり線書きですから、上の基本形からの発展の例に習って自分の文様を作ってください。

皮革作業に取りかかる前に

自分なりのアイヌ文様が出来たでしょうか。この文様を革に写し取って凹凸に仕上げるのですが、その前に次の点を考えよう。

- B (1) 出来上がりを予想する

自分が仕上げた文様で、およその見当はつきますが、この授業は皮革に凹凸で「文様」を作るのが眼目です。文様を色別に染めるのではありません。そのできばえを予想してみよう。

- (2) 触覚的な感覚を

文様を鉛筆で描くので、視覚的に考えがちですが凹凸で表現するので凹凸の手触り(触覚的)どうかも頭に入れておく必要があります。

- C (3) 立体的な感覚で考える

小銭入れは、途中から折り曲げられボタンのある側とその反対側になり、小銭が入ったときは、立体になります。そうすると、

① 一つのつながった文様(連続文様)が表から裏へ心地よく続く。

② 表と裏が独立した文様(単独文様)の場合でも、二つの模様に関連性や一貫性があるという頭の働きが必要です。

文様を皮革にうつす

文様を皮革にうつすのですが、その手順は、

- D ① 文様を整理する。② 皮革の形にまるく切り抜く。③ 紙の裏側一面に鉛筆で塗りつぶす。④ 皮革の表に紙の裏側を著け、ずらさないように上から形をなぞって皮革に形をうつす。紙をとりさって形を整理する。

凹凸をつける

用具は鉄筆一本しかありません。技術より根気がものをいいます。

① 革を充分湿らせる。鉛筆の線にそって形を描きます。

② 余白のつぶしを、鉄筆でつぶします。

* 図中の黒い部分は鉄筆でつぶしたところ。

図1. 点々でつぶしたもの。 図2. 斜線でつぶしたもの。

図3. クロスハッチングでつぶしたもの。

*ぬれた皮革は抵抗が強く、鉛筆で描くようにきれいには描けないので図1の場合がもっとも適当です。

図1.



図2.



図3.



主体的・意欲的な創造・活動する生徒 をめざし

—生徒指導の機能を生かした美術（デザイン）指導—



佐呂間町立佐呂間中学校教諭

光 岡 光 彦

1. はじめに

佐呂間湖より9km内陸にあり、5小学校が集まって247名の規模です。生徒は、あかるく、人慣っこく、生徒指導では、そんなに苦勞するところはありませんが、授業をみれば、本町に高校があるためか、積極さがなく、受身の姿勢がみられます。それは、美術に対しても例外ではありませんし、小学校時代の図・工に対しての印象を聞けば、半数以上が嫌いであり、その中でも、図画の方が特に嫌いとする生徒がほとんどです。そこに、本校の美術の課題があります。このような点を考えた時に、主体的・意欲的な創造活動をしていくには、どのように指導をしていけば良いのだろうか。

2. 実践の概要

(1) ねらい

生徒を主体的・意欲的な創造活動をするために

- ① 意志・意欲の場のある授業
- ② 自己決定の場のある授業
- ③ 相手とのかかわりのある授業
- ④ 自己確認の場のある授業
- ⑤ 支持的仲間関係のある授業

この5点の生徒指導の機能を生かすが、とかく受動的、教師主導になりがちな授業を、生徒がつくりあげていく事により、生徒個々に喜びを得てもらい、能動的に学ぶ生徒を育成したい。

(2) 計 画（デザインの授業配列）

- | | | | | |
|-------|---|------------|-----|-----------|
| ① 1年時 | — | レタリング | 6h | 明朝体、ゴシック体 |
| | | 色彩について | 4h | 三要素他 |
| | | 漢字を絵文字にする | 10h | 平面構成 |
| ② 2年時 | | ポスター | 8h | 視覚伝達デザイン |
| ③ 3年時 | | 立体感のある平面構成 | 8h | |
- ……平面構成で、ポスターカラーを1年時から使用……

(3) 実 践

- ① 意志・意欲の場のある授業（導入時の工夫）
班単位で一週間前から、内容について調査し発表する。
- ② 自己決定の場のある授業
発表させた事を参考にしながら、まとめたり、発展させたりしながら自分の考えを、アイデアスケッチとしてまとめる。
- ③ 相手とのかかわりあいのある授業
アイデアスケッチをお互いにみながら、良い点や、修正の点を話し合ってまとめる。
- ④ 自己確認の場のある授業

自己評価のとり入れ。

⑤ 支持的仲間関係のある授業

まちがった事を発言しても、わらわない。また、お互いに教え助け合う。

〈絵文字のデザインの例〉 2/10時間

過程	生徒の活動	形態	備考
導入	○意味が表現しやすい漢字を班長がまとめ発表する。	班 一斉	前時指示 掲示 ①
展開	○発表された、文字を参考にし、アイデアスケッチをする。 ○班の中でアイデアスケッチを見て検討し、お互いに絵と文字とのつながりが良いか、話し合い、発表する。	個 班	4～5枚 机間巡視 ② ③
閉	○修正加筆をする。		机間巡視
まとめ	○自己評価。 ○次時までの計画を立てる。 ○次時予告。	個 一斉	④ 発表し まとめる

※数字はねらい

3. 実践のまとめ

(1) 成果

図・工 美術は嫌いになるのはどうしてだろうか、といつも考えておりましたが、私もその一人でありました。表現したいと思うが、その時は表現方法を教えてもらった記憶がないのです。今、逆の立場になった時に、班を活動させ、友の発言や発表をもとに授業を構成していく事により、同じ事柄を指導するにしても、よくわかり、表現力がついて来ていると思います。消極的な生徒も、班の中では意見や考えを出すようになってきたと思います。今までは発言力のある子との一対一の授業もあったが、全生徒が少しでも意欲がでてきたように思います。



(2) 課題

班をつくと、ややもすると、休み時間の延長になり易く、学習への集中力がなくなる事もあり、班の育成に時間がかかるし、生徒の発表から方向性をまとめるのに時間がかかる。

立体のとらえ方(彫刻)

— 中学1～2年 「手」(発泡セメント)—



帯広市立南町中学校教諭

中 村 俊 昭

1. はじめに

立体物を制作することは、難しいと結論づけられ、敬遠されるけれど、立体を分析的に把握する能力を育てることが大事かと考えます。なぜなら、私たちは立体物の中で生活していて、その粗立て、形成がどうなされるのか、理解できず、ただ単に与えられたものを、疑問も持たずに、使用、あるいは、見ていることは、シャクではありませんか。どうも、美術の中でも、立体物を作ることが、疎外され、平面作業(絵画、デザイン等)が多くなってはいないでしょうか。

彫刻の授業として、一番、身近でありながら、むずかしくもある、手の制作をしました。

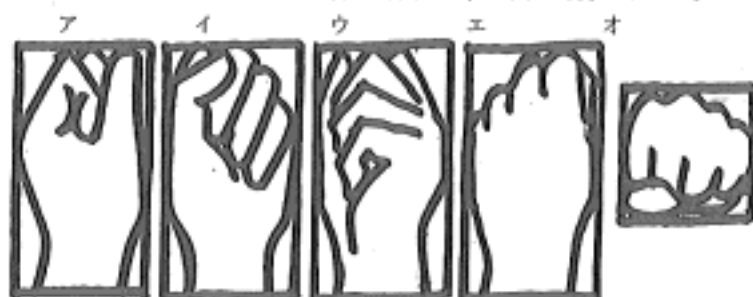
2. 実践の概要

(1) ねらい

立体は、線と線、面と面のつながりで成立しています。しかし、この連結の処理がむずかしいものです。六つの面を作っても立体表現にならず、苦心するものです。写実的表現において、まず、絵画的にデッサンをするわけですが、その時に、絵に残すというのではなく、頭の中に像を描くようにしなければなりません。また面から面へ連続的に移ることを無意識のうちに記憶しなければならないのです。その訓練のためのデッサンであると心がけることが必要です。それから、表現材料を使って、彫っていくわけですが、仕事の手順をよく考えること。一度、失敗したら、なおしがきかないことから制作への真摯な気持ちを育てることができます。その中から、立体の表現方法を知ることになり、出来上がりの満足感を味わうこととなります。

(2) 計 画 8～10時間

① 手のデッサン ・ 四つ切画用紙上に、5面の部分デッサン。



- それぞれのデッサンの指の位置がそろそろうように注意する。
次のようにならないこと。



- ② 面取り デッサンにもとづいて、「セメントブロック」にマジックインキで、線を入れる。

- アイウエの順序をまちがえて描かない。

- ③ 切る・大まかな部分をのこぎり（ボロのこでいい）で切る。
・切り口にはあらためてマジックインキで描き入れる。



- ④ 削る・12mm巾の平のみで削るとよい。生徒数分を用意しておくことが望ましい。（各自が彫刻刀を持ってきての制作では時間が、かかりすぎる。）
・親指の位置と、甲の部分の部分をさきに彫り、それから、それぞれの指の位置を彫る。

⑬ 制作環境

- ・デッサンをする時は、教室でもよいが、「セメントブロック」を削る作業は、屋外で行うのがよい。体育館横とか、自転車小屋の利用。
- ・作業台か、板としては、破損した机の天板を利用するのは、いかがですか。

3. 実践のまとめ

生徒は、立体物の制作に、興味を示すものであるが、どうも教師の方が、指導しづらいということから遠慮してしまうのが、現状ではないでしょうか。しかし、発泡セメント塊は、木目や、石目を気にすることなく加工しやすいので、大いに使ってみてはどうでしょうか。手の制作に限らず、抽象的な造形にも向いているように思います。ただ細かい処理はできないが……。

立体の製作における個々の生徒の状況の把握について



札幌市立屯田中央中学校教諭

岡澤邦彦

1. はじめに

生徒が作品を製作するときには、興味関心・性格・素材や技法とのかかわりなどによって、様々なすじ道を進むことが予想されます。どの筋道を進んで完成に至るかをとらえて、それに応じた新たななげかけができるとすれば、美術の授業のねらいにより良く追えることができます。立体を製作する授業においても、個々の生徒の性格や立体に対して持っているイメージのちがいなどによって、製作の過程や完成作品の内容は、様々な様相を示すものであり、それらを把握して指導に役立てる手法を明確にしておく必要があると思われます。そこで、生徒が立体とどうかかわって製作にのぞんでいるかを把握するために、2つの方向から考えてみました。

2. 把握の観点

(1) 意欲と不安

立体を製作するための素材はいろいろですが、一般には木や石や粘土や紙が使われます。このような素材をあつかう時には、平面の素材と同様(時にはそれ以上に)それまでの経験が重要になってきます。さらに、その経験が生徒の意欲にかかわってくることも考えられます。立体の素材に対して意欲が旺盛で熱心か、失敗を恐れ常に控えめなのかによって、取り組み方は異なっていきます。意欲が旺盛な生徒は、失敗を恐れませんが、計画性に乏しくなりやすく、不安の強い生徒は消極的でもありますが、計画的に作業ができる傾向もあると思われます。作品の製作にあたっては、この2つが調和をもって表われることが望ましいのですが、意欲の旺盛な生徒には計画性への指導がなされ不安の強い生徒には、失敗することのおそれを取り除くような指導が必要でしょう。経験を積んだ美術の教師の授業では、このことは日常行なわれているとは思いますが、個々の生徒の傾向を把握し、記録にとどめておくことも役に立つことであると思われます。

(2) 構築的なとらえと、塑像的なとらえ

生徒は普段さまざまな立体に囲まれて生活していますが、立体ということばからの形や素材のイメージは、個々の生徒によって異なると思われます。建物のような部分の集合として立体をとらえる生徒もいるし、中心から盛り上がるかたまりを思い浮かべる生徒もいると思われます。前者を構築的、後者を塑像的という言葉で表わすとすれば、個々の生徒がそのどちらの傾向が強いかをとらえておくことは、立体の製作を指導する上で役に立つのではないのでしょうか。

3. 実践の概要

(1) ねらい

立体の製作をとおして、個々の生徒の状況を把握し、それにもとずいて、新たななげかけを工夫して、より深く表現のよろこびを味わわせる。

(2) 計画

① 題材名「よい形の立体をつくろう」 1年

② 題材への配当時間 5時間

③ 製作のための材料と用具

・ケント紙または紙粘土 ・はさみ、のり、粘土ペラ、その他

④ 条件

・室内に置く(吊す)ものとして考えて、よい形の立体を作る。

・材料はケント紙と紙粘土のどちらかを選ぶ。

・形は、抽象、具象のどちらでもよい。

・大きさは、たてよこ高さがそれぞれ約20センチ以内とする。

・部分を作ってつなぎあわせてもよい。中心から作っていって盛り上げて細部を作って完成に至ってもよい。

(3) 方法

① 説明のあと、アイデアスケッチをさせ、紙でつくるか、粘土でつくるかを決めさせる。(計画性に対する指導)(1時間)

② アイデアスケッチをもとに、油土かケント紙を使い、小さな模型を作らせる。(素材への不安に対する指導)(1時間)

③ アイデアスケッチおよび試作の段階で机周巡視し、意欲的か不安傾向が強いのか、アイデアが構築的か塑像的かを一人ひとりについてとらえる。

④ 材料を配り、試作にもとづいて製作させる。(2時間)
試作とはちがう形になってもよしとする。

⑤ 完成作品を鑑賞する。(0.5時間)

⑥ 自己評価表をもとに、製作をふりかえる。(0.5時間)

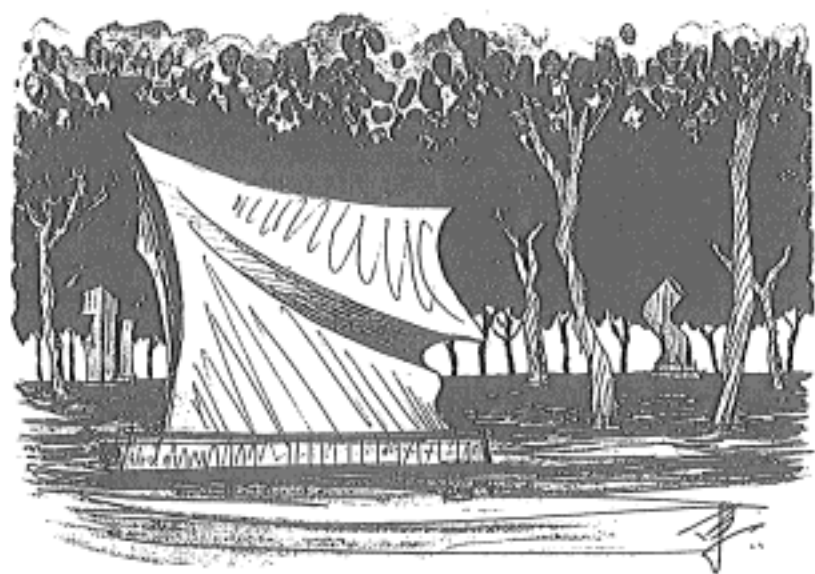
4. 実践のまとめ

立体への関心を深め、それまで持っていた立体への感覚を伸ばし、新たなとらえ方を身につけていくことにつながるものと思われます。また身近にある立体に対する興味が増すことにもなっていると思われます。

多様な材料を用いる時は、材料の準備がむずかしいこともあるので、作業の進み方を考えて、綿密な計画を立てる必要がありますが、あるいは、生徒が自分で材料を見つけてくることで解決できるとも考えられます。今後の課題としては、立体の製作について生徒が多様なすじみちを自らえらんで製作していけるような、指導法の開発と、たどっている道すじを随時、把握し、そのつど指導を加えられるような方法を見つけていくことだと思います。美術の授業を行なう教師は、常に感性をみかいているわけですから、その生徒の持ち味が何であり、何が指導されるべきところであるかは、直感できるわけですが、それが効果的になされるための指導法の工夫を常に行っていきたいと思っています。



中村俊昭



小室 吏

実技研修一覧

区分	領域	分野	講師名	所 属
A	描 画	花・水彩	安 達 大 元	十勝管内造形サークル顧問
B	デザイン 工 作	紙でつくる	伊 藤 恵	北海道造形教育連盟顧問
C	デザイン	コンピューター グラフィック	坂 上 光 里 棚 瀬 敏 郎 對 馬 克 恵	帯広市立開西小教諭 帯広市立啓北小教諭 帯広市立帯広小教諭
D	版 画	木凹版画	中 谷 有 逸	北海道立柏葉高校教諭
E	彫 刻	木っ葉像	小 室 吏	帯広市立清川中教諭
F	工 芸	石面彫刻	陶 守 哲 夫	十勝工芸社

実技のワンポイント

花を全部、又は部分的に描いてよい。絵具の色数を多く使い表現をしやすくする。

画板に枕をし傾斜を与えたり、イーゼルを使って描いてみる。

絵の描きなおす(水洗い)方法を知る。同時に濡いた水が多いときティッシュペーパーで吸い取る。

一枚の絵を仕上げるより、技法的に自由に描いてみるという気楽な気持ちでやってみよう。



実習要領

- 使用したことのある方はイーゼルを使って下さい。
- 12色外の色は、事前にパレットに分配します。
- 構図など考えず、部分的に自分に描いてみるもよい。
- 描く時間を多くするため、表などで簡略な説明にします。
- 色の塗かえ、失敗など水洗いの方法をしてみます。
- 時間があれば、鑑賞、下絵の描き方、似顔絵についてお話しします。



十勝管内造形サークル顧問
女子短期大学講師

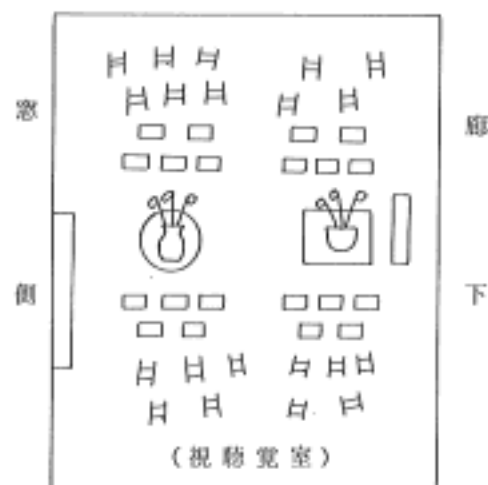
安 達 大 元

十勝管内義務教育の学校長を退いた後も、美術団体や地元の大学等で、情熱的に後輩や青年の指導育成に当たっている。

画家としても活躍中で、特に、透明感の高い豊かな色彩の作風は高く評価をされている。また、似顔絵は趣味の域を超えている。

芽室町東2-3-10 ☎0155-62-3610

プロフィール



「展開図のいらない紙立体」

実技のワンポイント

今回は「かわり正多面体」をつくります。

- めんどくさい展開図は作らない。
- 糊しろはいらない。

「展開図のいらない紙立体」は、型紙などを印刷したりせず、子ども達にその場で説明し、子ども達が自分で決定して作るための一つの方法だと信じています。

集った先生方に、そのことを是非知っていただきたいと思っております。



北海道造形教育連盟顧問

伊藤 恵

札幌で義務教育の学校長として、特に、造形教育に力を入れ、その実績は高く評価されている。また、永きにわたり造形教育連盟の指導者として活躍。各地の研究大会でも指導助言者として、特に、工作教育の普及・水準向上に努めてきた。

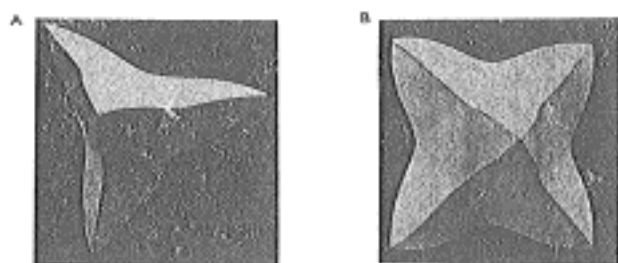
札幌市豊平区月寒東3-18-20-20

☎ 011-851-8396

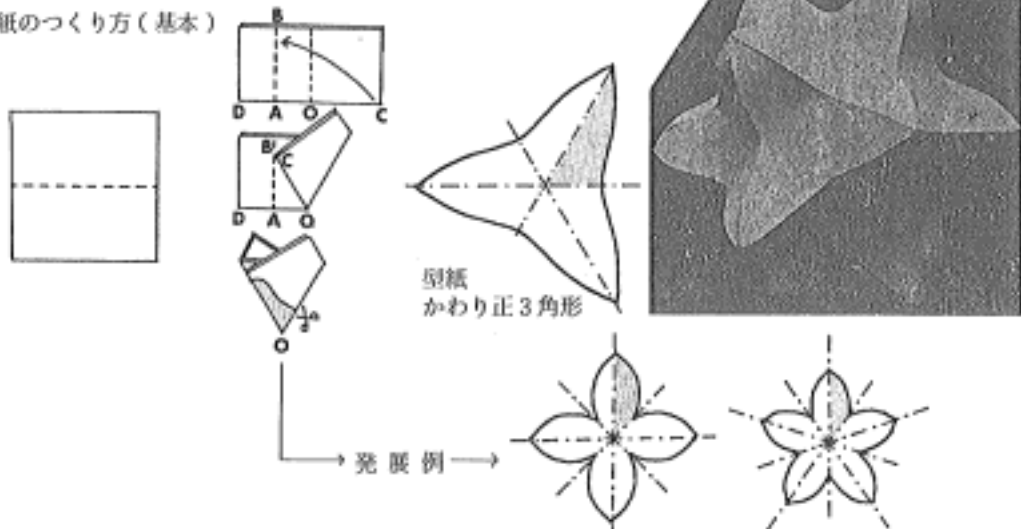
プロフィール

つくり方

- ◆ 画用紙に型紙をのせて切る。
- ◆ 同じ形をたくさんつくる。
- ◆ 必要枚数を順次はり合わせる。



型紙のつくり方(基本)



—— 実技のワンポイント ——

いま、コンピュータお絵かきがおもしろい。
CRT画面をキャンバスに見立て、描いては消し
消しては描き、幼いころの無心さで「イタズラ
描き」の楽しさを味わおう。
誰にも邪魔されない、君だけの心の古里で楽しん
でみませんか。

—— プロフィール ——

帯広市におけるコンピュータ利用教育の草わけ
的存在。

ニューメディア委員会、新教育方法開発委員会
の推進役として活躍中です。

その成果として、理論学習の時代から実践の時
代に発展させ、更にコンピュータ利用教育の普及
に努めるとともに市内の全ての小中学校にワー
プロやコンピュータを導入する基盤をつくった。



帯広市立開西小学校

坂上 光 里



帯広市立帯広小学校

對馬 克 憲



帯広市立啓北小学校

棚瀬 敏 郎

1. コンピュータの教育利用の現状

ここ数年来、教育界においてもコンピュータについての話題が多くの人達によって語られる様になっ
て来ました。また、全国各地の学校でも実際に学習指導の中にコンピュータを取り入れ、その可能性に
ついての研究を積極的におし進めている学校が、増えています。ここ、北海道でもその潮流に逆らえな
い時代にきていると考えられます。

2. 造形教育の中での可能性

現在のところ、コンピュータの教育的利用については、CMI、CAIの画面について、限られた範
囲で利用されているのが現状ですが、今後はますます利用の範囲が広がられると思われます。

美術教育・造形教育の本筋は、実際に材料を使用し、直接的な体感により経験させることです。しか
し、頭の中に「わきでてる」創造の芽を一度、コンピュータの上で練り直し、構想を練り上げること
も一つの方法と考えられます。

最近のコンピュータは、使用できる色の数も豊富(16色が標準)になり、微妙な中間色の表現も可能
となっています。また、ソフトの面でも使いやすい優秀なものが、開発される様になって来ました。

それでは、美術・造形教育の場面でコンピュータは、どのような可能性を持っているのでしょうか。現
在のところはまだ、研究の出発点にさしかかったところ。その、可能性は教師の「創造性」にかか
っていると一言でも過言ではないと思います。

確かにコンピュータは、只の「電気箱」であり、ある国では「電脳」と名付けられてはいますが、そ
の「脳」(CPU)は、計算には強くても、創造性を要求される仕事には弱いところがあると言われて
います。

しかし、これはコンピュータにばかり責任があるのではなく、使う人間の創造性には責任の一端が

あると思われます。

① 子ども達は、お絵かきが大好き

子ども達、特に小学校低学年の子ども達はお絵かきが大好きです。子ども達にコンピュータをあずけ、自由にお絵かきをさせる。

こんなところに可能性の「芽」が潜んでいるのではないのでしょうか。

難しい理屈をつける前に、子ども達にあずけてみるのが大切です。

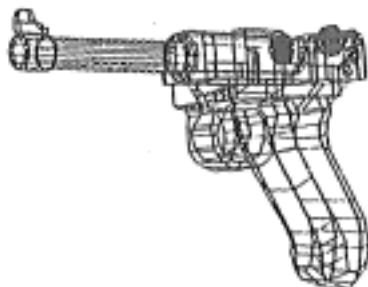


② 光と影の指導

光と影の関係の指導には、多面体で造られたいろいろな石膏像が利用されています。

しかし、この石膏像も多種多様に用意するわけにはいきません。

しかし、多面体作成ソフトのシュミレーション機能を利用すると目的の多面体の像を作成し、光源の位置や強さをいろいろと変化させてシュミレーションを実行することが可能です。



③ 色の組み合わせの指導に

コンピュータ上で、色を組み合わせることは簡単にできます。ポスターの製作などの導入段階の指導に生かすことが可能でしょう。



④ 文字のデザイン、具体物の抽象化に

文字のデザインや具体物を抽象化させる時の指導には、創作段階にはいる前に大変な苦勞をさせられます。口では説明の難しいことがたくさんあります。こんな時にコンピュータグラフィックの作成ソフトを利用するのも子ども達の創造性を刺激する一つの方法と考えられます。



微妙な明暗を表現する木版画

実技のワンポイント

木版画では技術的にも細かなタッチで微妙な中間の明暗を作るのは、特に小学生の段階では難しいことだ。

ここで試してみる釘(の様なもの)を打ち、穴の点を明けて作る中間明度で表現される効果は四次元的な霧・雲・ムード・怪しげな気配の表現に通じ、また三次元的な立体感の表現、特に無機的なものの立体的な表現に通じている。やってみると簡単な事であるが、表現の幅を随分広げてくれるものである。



北海道帯広柏葉高等学校

中谷有逸

1936. 札幌生れ, 1962. 道展会員, 1968. モダンアート協会会員, 1970. 道立近代美術館に版画買い上げ, 1972. オリンピック協賛, 現代日本版画展出品, 1974. モダンアート協会・会友賞受賞, 同 モダンアート協会会員となる, 1982. 第5回北海道現代美術展・優秀賞受賞, 1983. 「北海道の美術/Hokkaido Art 展」(カナダ・アルバータ)出品, 1987. 帯広市文化奨励賞受賞, 1963~89 ヨーロッパ各国, ソ連, 中国など9回取材・研修。

プロフィール

「造りかた」

用意するもの=版木…シナベニヤ板(薄墨を塗っておく), 釘…5寸釘, 3寸釘, 2寸5分釘, 2寸釘
ぐらいの太さの違いが効果的だった。それぞれグラインダーで先を丸く減らしておく。
金鋸。版画インク(中性)とローラーセット。

制作

1. 原画を描く

明暗の場合、黒6or7:白4or3位の割合が一般に強い作品になる。しかしこの仕事では中間明度を用いた表現が面白いのだから、特に、中間明度の変化の様子を描く。ハッチングや点の集まりで描いておく。

2. 版木に原画を写す

シナベニヤ板には、墨汁を薄めて刷毛で塗り乾かしておく。(彫り跡がわかる)

原画をトレーシングペーパーに写し、それを裏表逆にして、カーボン紙を用いて板に写す。カーボン紙の代わりに薄いロール紙を用いても可能である。安いのである。

3. 彫る

○彫る時の指導の一番のコツ…一般的な言い方をするなら、「なるべく彫らない様に彫る」ように指導すると言うことだと思ふ。たいてい彫り過ぎて白っぽい魅力のない物にしてしまう。

○刀で彫る…原画の段階で、ここはどの様に彫るのか分かるように描いておけば一番望ましいが、小学校低学年の場合など、あんまり原画などにとらわれずに、ぐんぐん彫っていくべきだと思うが、中学生以上では特に今回のように微妙な明暗のトーンを作って表現効果を上げようと言う仕事の場合は、制作の初めのうちは、特に「刀での彫り」は少なくしておきたい。生徒には、後でいくらかでも彫ることができる事を納得させることが大切と思う。従って輪郭線などは黙っておくとぐるりと全体を彫ってしまいがちだから、必要最低限度の彫りにおさえおかせの事が大切と思う。

○釘で彫る…点の粗密で明暗を作る。一番明るくしたい部分から一番太い釘を金鋸を使って打ち付けて穴を開けていく。暗部に行くに従って細い釘を用い、数も少なくしていく。

4. 試めし削り

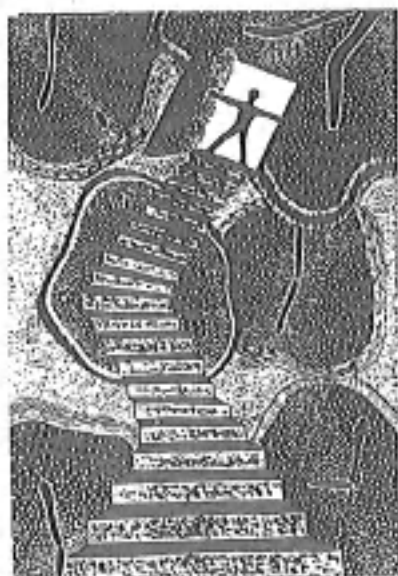
ある程度彫れたら、インクを付けて刷ってみる。

5. 完成へ

この後、釘や刀で彫り足りないところを彫る。試し削り。彫る等を繰り返して完成させる。



富張 広司



生徒作品



生徒作品



富張 広司

実技のワンポイント

●素材さ、手軽に作る彫刻像

- ①木片に思いっくままに彫刻する。
- ②工具の使用法や要領を得る。
- ③のみ研ぎのコツを得る。
- ④電動工具を最大限に活用する。
 - ・バンドソー B S 6 型
 - ・自動かんな A P 10 型 使用法と応用
 - ・電動彫刻機

— 帯広市立清川中学校教諭 —

小 室 史



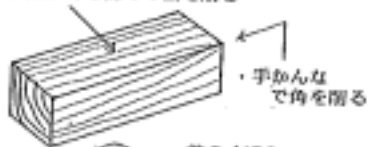
学大剣路分校を出て美術教師一すじの30年目。教育実践のかたわら雄大な北の大地に、陸別町開拓の祖「関寛翁の像」をはじめ、豊頃町開基百年記念の像

「飛翔」など23基のモニュメントを制作してきた。最近はお泊町自然ランド「彫刻の森」造成地で現場制作に奮戦する一方で、ポロシリ岳のみもとにある画廊喫茶ウイーン館の一角を借りて仙居窯を造り、風土に根ざしたポロシリ焼にも没頭。多角的な芸術の追求に、そして北国の文化興隆に果敢な行動力で、今日も奮闘している。

— プロフィール —

つ くり か た

・自動かんなで4面を削る



・正面にする

・バンドソーで斜めに切る

1. 材料とり

① 角材を作りたい長さに切断する。

2. かんなかけ

① 自動かんなAP10型で四面を削る。

② 手かんなで角を、やゝ丸く削る。

3. のみの使い方

① 平のみ、角のみ、丸のみ等で木のはつり方を練習する。

4. 彫刻する

① 材料を万力でしっかり固定し、首の位置を決め、角のみで削る（V字谷の溝彫りが良い）

② 胴部を各種のみを使って思いっくままに彫る。

③ 目、口、手、足などは単純な線彫りで表現し、角のみで彫る。

5. サンドペーパーで研ぐ

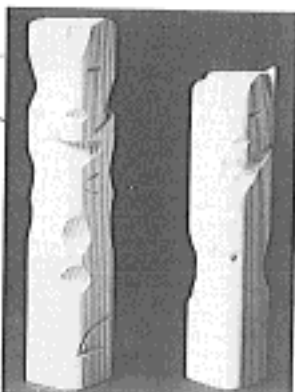
① 削った部分の表面をサンドペーパー（230番）で研ぐ。

6. 仕上げ

① サンドペーパーで表面仕上げし木目を生かす。

② 着色して、ワックス仕上げ。

③ バーナーで表面を焼き仕上げ。



— 実技のワンポイント —

十勝石は天然ガラスといわれ、北海道は日本で一番豊富な産地です。

磨いた面は主として真黒で質も均質、いろいろな装飾品に使われています。又、世界中で幸運の石としても大切にされています。

その十勝石の磨き面に、絵や文字を彫刻して、置物や、マスコット、記念品を作るのは、とても楽しく、しかも簡単な方法で、どなたでもすぐ出来るので、一度試作してみたいかですか。



陶守 哲夫

有限会社 十勝工芸社取締役社長
中川郡本別町南2丁目 電話 01562-2-2208

足寄町文化財調査専門委員会副会長
北海道中央水石会副会長
十勝中央水石会会長
北海道みみず飼育研究会会長

— プロフィール —

~~~~~ つ くり か た ~~~~~

製作はまず十勝石の一面を研磨した材料を求めます。

1. 磨いた十勝石の面に、パラフィン（ロー）をうすく塗ります。
2. パラフィンの上に彫りたい絵や文字を鉄筆や竹棒でローを削り取ります。
3. 削り取った部分に、弗化水素酸の液を塗ります。
(弗化水素は、十勝石のガラス分をとかす性質を持っています)
4. 弗化水素を塗って置く時間によって、彫れ方の浅深があります。
5. 弗化水素をふき取り、ローを片刃のカミソリの刃で取りますと、十勝石の磨き面に、絵や文字が凹んでみえます。
6. それに、油絵の具か、ラッカーで色を入れ、又片刃のカミソリで磨面をなざると出来上ります。
7. 出来上るまで一時間あれば充分です。

(材料費の一部を負担していただく場合があります。)



霜村英靖



宮沢克忠

—管内実践紹介—

～ 呼びかけ（要旨） ～

「大会の中で、授業や分科会の提言としては発表できませんが子どもをとりこにさせたあなた（の学校）の実践を、紀要の中で紹介します。ダイジェストを送って下さい。」

広大な帯広・十勝

光る実践は、まだまだありそうです。

実践主題



「埴輪をつくる」

帯広市立清川中学校（3学級）

学校長 高山 洋一

☎（0155-60-2055）

1. ねらい

地域でとれる粘土を活用し造形する喜びと、野焼きによる焼成体験をさせ、人間の創造的才能を刺激し、情操心と創造性を培いたい。

2. ポロシリ粘土を作る

・八千代地区の粘土	3	を混合
・トッタベツ川の粘土	1	
・シャモット	1/2	

土練機で充分ねり合わせる。

3. 成形する

- ① ポロシリ粘土、5～6kgを与える。
- ② ひも作りを主体に、高さ40cm大の作品を作らせる。
- ③ 埴輪のもつ特有な雰囲気や単純化された形態美をくふうさせる。

4. 焼成する

野焼き炉（図示）を自作し焼成する。



実践主題

「紙の立体」（正20面体）

帯広市立第三中学校（17学級）

学校長 池田 保郎

☎（0155-24-1428）

実践ダイジェスト

目標を「正確な作業」「ていねいな作業」「工夫した配色」「意欲の持続」とし、興味を持ち、失敗の少ない、完成時には充実感を持たせ、次作品への意欲を引き出す「紙工作」について2学年で実践している。

「正確な作業」では、コンパスと定規で正多角形の書き方を練習し、正確に書くポイントとしてコンパスの針の置き方、定規の押え方に注意させる。「ていねいな作業」では、カッターナイフの扱い方、ボンドタフの使い方、山折り谷折りのガイド線の引き方に注意させる。「配色」では、材

料が「カラーぞうけい」という¥100のコンビカラー6枚1セットを使用する。黒紙1枚を抜き5枚10色で20ユニット全部使い同じ色がとなり同志にならない様工夫させる。細かな作業であるが、少しずつ出来上っていく楽しみがあり、消化する作業の見通しもはっきりしているので、ほとんどの生徒が喜んで参加する。又、細部を見なければ大ぶりの立体物が出来るので完成作品としての充実感を味わうことができる。（森 厚夫）



実践主題

学校行事におけるデザイン学習の一例

音更町立下音更中学校(10学級①)

学校長 福西茂男

● 080-01 河東郡音更町中鈴蘭南1丁目4番地

☎ (0155-31-3324)

実践ダイジェスト

今年もあと2ヶ月で学校祭があります。学校祭では生徒が活動の中心となり、自分達の学校祭をつくりあげています。さまざまな実行委員会がありますが、その中にテーマ・シンボルマーク実行委員会があります。その仕事はテーマを生徒全員から募集し、次に決まったテーマに基づいたシンボルマークを全員にかいてもらい、その中で良い

ものを製作するというものです。事前指導は1年生の時にいき、漫画のキャラクターの真似にならない、絵画的な表現にならないよう指導します。

募集するアイデアスケッチには簡単に彩色することになっていますが、中には真面目にかいて出さない生徒もいます。そのような生徒に対しては学級指導、授業の中で指導しています。

問題点としては、やる気のない生徒の指導と作品の保存などがあげられますが、古いのは写真にとって廊下に掲示しています。(文責・佐藤久道)



実践主題

「混色の指導」

帯広市立川西小学校(学級数6)

学校長 小見山正雄

帯広市川西町西3線66

3年生の絵の指導で大切なことは、「目を育てること」である。そのためには観念という「から」をわらなければならない。

「木は、幹と枝と葉っぱでできてる。」

「葉っぱは緑色。」

これでは目は育たない。

そこで3年生最初の図工の時間に「混色」の指導を行った。

指導のポイントは、次の3点である。

- ① 絵の具は、3原色、あい色、白の5色しか使わせない。
- ② 水も色であることを教える。
- ③ 自分で作った色に名前をつけさせる。

子供たちが夢中になるカギは③である。最初は①の指示を聞いて騒いでいた子供たちが熱中するのである。

・ぶきみ色 ・スーパーバイオレット ・こんの先生のふく色 ・うすもも色 ・ちえ子ちゃんのジャージ色 ・へんな色 ・くぼん色 ・P&Z。子供たちは思い思いの色を作った。

「習うより慣れろ」である。

「混色」の導入は成功したと思っている。

(紺野洋一)

実践主題

「心をひらき豊かに生きるために」

北海道帯広養護学校(22学級)

学校長 鈴木幸治

● 080 帯広市西25条南2丁目7-3

☎ (0155-37-6773)

実践ダイジェスト

精神発育に遅滞をもつ児童達にとって、造形活動は特に大切な領域であり、成長には欠かせないものとなっている。観る、描く、触れる事などを

通して児童の感覚機能や感性を無限に伸ばすことができる。造形活動の日常実践では主に、描く、塗る、貼る、切る等であるが、他に粘土を使用した活動もみ逃せない。多くの色・形・量や素材に触れ、親しませることによって「つくること」の楽しさを少しでも味わい感じてもらいたいと思っている。小学校低学年では大方、「造形あそび」的な学習の展開や作品群になってしまうが、子ども達の表情はととても明るくて、楽しんでいる様子が日々伺える。(柳沢由枝)

実践主題

心をつなぐ「全校制作」

帯広市立啓北小学校（12学級）

学校長 秋 江 義 三

☎ 080 帯広市西14条北7丁目3

☎ (0155-36-7754)

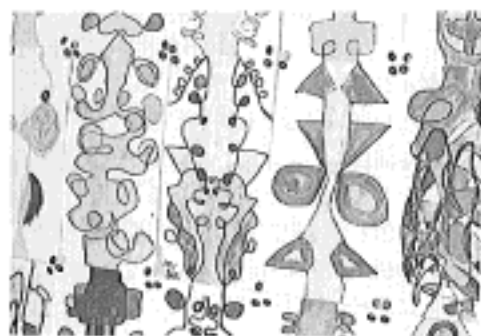
実践ダイジェスト

本校では、昭和58年の開校以来、全校児童による造形活動として、年間5回の「全校制作」を実践してきている。

一つの題材に向かって全校児童が制作に取り組む。約450人分の小さな作品は掲示板の上で再構成され、新しい大きな作品として誕生する。

児童のアイデアを生かすことによって、教科の授業ではできない楽しい題材がつけられ、造形への関心・意欲が高まってきている。

ロビーの大掲示板いっぱいの作品の前は、子ども達の心のふれ合いの場となっている。



実践主題

楽しく取り組む工芸

帯広市立帯広第四中学校（20学級）

奥 野 淳 一

帯広市立帯広第八中学校（22学級）

海 富 隆

*遊んで・飾れる

楽しく・美しいパズルを作ろう*

- ☎ 板材の特性を生かした構想であり、より独創的図案でありたい。
- ☎ 楽しく遊べ、飾って美しいものでありたい。
- ☎ 製作は、計画的であり、粘り強くありたい。

◎図柄と切断線が一致したものとする。

◎着色について特に気を使い、本肌を十分生かすような着色にする（木目をにじみ出させ、しかも色合いが美しく表現できるように）

◎外枠は単袖にならぬよう、トリマーで装飾する。（一段と豪華さが増す）

◎仕上げは、色を大切にするためロウWAXで仕上げる。

中学1年生の工芸題材として毎年取り上げて来たが、例年子ども達には一番人気の高い題材となっている。図案を考え、糸のこで切断し、磨き、着色をして出来上がった後、交換してパズルの出来を競い合い、楽しむ姿を喜ぶとともに、作品としてもすばらしいものが増えている。

実践主題

生きた線で描くために - 2年生 -

音更町立柳町小学校（12学級①）

学校長 井 川 巖

☎ 080-01 河東郡音更町柳町南区14

☎ (0155-31-5275)

実践ダイジェスト

2年生は、昆虫やざりがに等、小動物が大好きです。そこで教室で飼っているざりがにを題材に素描をしてみました。

まず、班ごとにざりがにを観察させました。「大きいはさみだなあ」「小さいはさみがついた足もあるよ」「ひげは長いなあ」「強そうだなあ」

次にざりがにをしまいます。「ざりがにって、どんなだったかな。頭のテレビにうつしてみよう。」

そこで、「強いざりがに」というテーマで書かせました。約束は、①1枚の紙に1匹だけ大きく描く ②なぞるような弱い線ではなく、一回で力強い線で描くこと。

子供達は、思い思いに鉛筆を走らせました。大好きなざりがににだけあって、思い入れも強く、熱心に取り組めます。こわくてさわれなかったEちゃんのはさみは、体の倍もありました。「強そう。強そう。」みんな大喜び。小さく描いてしまった子には拡大コピーして見せたりもしました。「うまく描けた。という満足感が、次につながるのだと思います。（西山千晶）

実践主題

C・Gの活用による平面構成

河東郡音更町立音更中学校(11学級①)

学校長 山根 敬

☎ 080-01 河東郡音更町雄飛が丘1番地

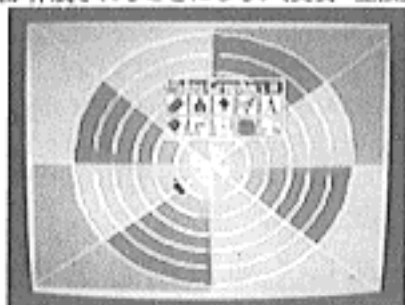
☎ (0155-42-2544)

実践ダイジェスト

デザインにおける平面構成では、アイデアスケッチを何枚も試みて、その中から実際に作品として取り入れようとする図柄を選び出し・作図検討・着色という過程を経て作品完成となる。しかし、図柄を作図する段階を消したり書いたりすると時間的に非常に無駄な部分が出てくる。また、図柄の完成とともに、出来上りの完成予想図を頭の中でしっかり把握していなければ、何度もやり直さなければならない事になる。そこで、アイデアスケッチや着色の簡略化によって、学習者の興

味の維持と、より多彩なアイデアの創造という点でC・G(コンピューター・グラフィクス)の活用は、デザインの学習におけるステップ段階として大変効果がある。C・Gを活用することによって色や構成についての構成美を身につけさせる。

C・Gの活用によって、従来の技術指向の学習から、生徒のイメージ確認作業や、発達段階にウエイトを置いた学習に変更させることができ、平面または、立体においてもより見通しを立てた計画が作成されることになる。(文責・笠松英治)



実践主題

鉛筆デッサン(模写)

音更町立緑南中学校(9学級)

学校長 下川 利徳

☎ 080-02 河東郡音更町字下土俵北2線東25番地

☎ (0155-31-3791)

実践ダイジェスト

ねらい

2・3年生になると、美術の授業が息抜きの時間になってくる傾向がある。それだけでなく絵を描くことや物を作ることに興味が薄くなってきているときである。それで、少しでも楽しくできる授業と思い考えた題材である。

実践主題

金属工芸

キーホルダーづくり(真ちゅう板の高食)

広尾町立広尾中学校(11学級①)

学校長 上神田 正

☎ 089-24 広尾郡広尾町並木通東1丁目11

☎ (01558-2-2089)

従来の金属高食は硝酸を利用していたが私は塩化第二鉄液を利用している。理由は化学反応が緩やかで弱いマスクングでも耐えるからである。定尺

実践

顔写真を用意させる。(なるべく実物大か、それより少し小さいぐらいの物)

必然的に歌手などのポスターになる。生徒は自分の好きな歌手の顔写真を持ってくるのでかなり興味を引くことができる。定規で正確に計り、目、鼻、口の位置を決め影を付けていく。(あらかじめ鉛筆で濃淡の段階を10段階ぐらいに描き分けられる練習をしておく)

効果

模写する写真を自分で自由に選べることから、最後まで飽きずに描き続けることが出来る。人物画、自画像などの教材の前に行なうと効果的と思われる。

板の真ちゅうを購入し3×5cm位にカットし、それに油性のマジック、テープ、レタリングシートなどの薄いマスクングを施し腐食液に1時間ほどつけておく、取り出し、水洗いをし、金たわしで磨き最後に研磨剤で仕上げる。後はドリルで穴を開けくさりを通し、カドヤヤスリで整え完成である。全行程4時間・材料費120円位(くさり込み)レタリングシートやマジックのマスクングがそのままシャープに残り、でき上がりの金属の光沢が魅力の教材である。金属の性質・加工を知ることによって自分の美術の世界をひろげる一つの教材である。



富久尾
Futaba Takao

富久尾 豊

年次研究主題

＝ 全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧 ＝

- ・第1回(札幌) 情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため。
- ・第2回(札幌) 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- ・第3回(旭川) 美術教育の指導とは何か。
- ・第4回(函館) 図画工作教育実践上の諸問題について。
- ・第5回(釧路) 図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- ・第6回(札幌) 造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- ・第7回(室蘭) のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- ・第8回(小樽) 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- ・第9回(帯広) 新段階における造形教育のあり方。
- ・第10回(網走) 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- ・第11回(滝川) 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- ・第12回(名寄) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- ・第13回(余市) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- ・第14回(札幌) 子どもの造形能力とは何か。
- ・第15回(稚内) 子どもの造形能力とは何か。
- ・第16回(室蘭) 子どもの造形能力とは何か。
- ・第17回(函館) 指導の構築を具体化する。
- ・第18回(苫小牧) 指導の構築を具体化する。
- ・第19回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- ・第20回(旭川) ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- ・第21回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- ・第22回(帯広) 未来に生きる子どもの造形教育(生活に根ざした造形表現をどう高めるか。)
- ・第23回(室蘭) 未来に生きる子どもの造形教育(たしかな表現力をどのように育てるか。)
- ・第24回(美幌) 未来に生きる子どもの造形教育(一人ひとりの子どもの表現力をどう高めるか。)
- ・第25回(江別) 未来に生きる子どもの造形教育(自ら創りだす力をどう育てるか。)
- ・第26回(岩見沢) 未来に生きる子どもの造形教育(すべての子どもの造形のよろこびを。)
- ・第27回(札幌) (第30回全国造形教育研究大会とかねる。)みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- ・第28回(函館) みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践(すべての子どもが生き生きととりくむ造形学習。)
- ・第29回(旭川) 生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- ・第30回(苫小牧) ひろがりと深まりの造形教育を求めて。
- ・第31回(釧路) 創りだす心をよびおこす造形教育。
- ・第32回(室蘭) 見る、知る、感ずるそして、創りあげる喜びを。
- ・第33回(留萌) 生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- ・第34回(札幌) 知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動(わき立つ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)
- ・第35回(函館) 知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動(心をこめてつくりだす子どもを育てる。)
- ・第36回(旭川) (第30回全国造形教育研究大会とかねる。)子どもの心をゆり動かす造形教育(つくる心のひろがりや深まりを求めて。)
- ・第37回(紋別) 子どもをゆり動かす造形教育(表現の喜びにひたる子どもを育てる。)
- ・第38回(滝川) 子どもをゆり動かす造形教育(ひたむきに創る心を育てる。)
- ・第39回(帯広) 子どもを個性表現を掲げる造形教育の充実(君はいま創造のとりこに)
- ・第40回(苫小牧) (記念大会です。来年はぜひ苫小牧であいましょう)

平成元年度 北海道造形教育連盟名簿

役員

役員	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	金井秀男	札幌市平和小長	064 札幌市西区手稲平和244番地6	011-663-4384
副委員長	秋山修世	函館市西中長	040 函館市弥生町11-16	0138-22-2828
〃	早弓弘行	滝川市東小長	073 滝川市文京町2丁目1-1	0125-23-1591
〃	寺本吉明	清水町立人舞小長	089-01 上川郡清水町字人舞289	01566-2-5278
〃	川上宏	苫小牧市開成中長	053 苫小牧市清水町2丁目9-2	0144-32-8278
監査	三谷哲司	札幌市啓明中長	064 札幌市中央区南9条西22丁目	011-561-4168
〃	出村保	遠別町遠別中長	098-35 手塩郡遠別町字幸和	01632-7-2034

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	佐々木理温	三角山小長	643-1133	研究部長	富田泰	伏見小	551-2771
事務局次長	船着昭弘	開成小長	783-4492	次長	佐藤靖	篠路西小	772-0275
〃	加藤五十和	向陵中	611-4271	〃	岡部宏行	附属小	778-8607
〃	土岐慎次	札北高	736-3191	〃	菅原清貴	発寒南小	662-2012
会計部長	鹿島健	澄川南幼長	584-1751	〃	荒谷博文	札苗中	783-1027
次長	奥野郁男	白石中頭	861-1106	〃	村谷利一	北栄中	731-0264
庶務部長	蛸子信也	北陽小	716-1657	〃	角力山旭	陵北中	621-1225
次長	窪田恵子	山の手小	621-0439	〃	香西富士夫	平岸高	812-2010
〃	鶴賀孝三	新陵小	682-8412	事業部長	谷勲	澄川西小	811-7785
〃	菅原稜三	稲陵中	683-3451	次長	藤井正治	創成小	241-1756
広報部長	伊藤善彬	曙小	511-0124	〃	富所玲	緑丘小	561-5118
次長	永井恭子	平岡小	883-7801	〃	伊藤朝紀	東苗穂小	781-9191
〃	島二	札苗中	783-1027	〃	毛馬内国夫	山の手南小	621-6771
〃	塚野昭臣	附属中	778-8527	〃	多田敏一	柏中	521-2341
				〃	安原正	八軒東中	643-5050
				〃	佐野千尋	真栄高	883-0465

事務局

〒064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4-1

札幌市立三角山小学校 佐々木理温

TEL 011-(643)1133

地区委員名簿

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話
札幌	連盟札幌支部	岩間 歳仁	もみじ台中	061 札幌市白石区もみじ台西1丁目	011-897-4584
道央	石狩造形連盟	巖 信栄	真町中長	066 千歳市真々地2丁目3-1	0123-23-0131
	"	宮川 誠一	向陽台中頭	066 千歳市若草5丁目	0123-28-4266
	空知美術教育研究会	田上 功	奈井江小	079-03 空知郡奈井江町164	01256-5-2108
	"	内田 暢一	幌向小	069-03 岩見沢市幌向南2条1丁目	0126-26-2100
道西	連盟後志支部	志津 照男	寿都小長	048-04 寿都郡寿都町矢追579	01366-2-2030
道北	上川造形教育研究会	重山 恵	名寄東中	096 名寄市大橋1-3	01654-2-3174
	旭川市教育研究会園工美術部会	飯塚 礼二	末広小	071 旭川市末広6条2丁目	0166-52-4339
	留萌地方美術教育研究会	出村 保	遠別中長	098-35 天塩郡遠別町字幸和40	01632-7-2034
	稚内園工美術サークル	成田 昭人	潮見が丘中	097 稚内市若葉台2290	0162-34-3315
道南	渡島美術教育研究会	近堂 俊行	大中山中	041-11 亀田郡七飯町大中山291-1	0138-65-2221
	函館市美術教育研究会	安井 孝	深堀中	042 函館市深堀町28-1	0138-52-2682
	松山造形教育研究会	堀合 隆	乙部中長	043-01 乙部町字緑町17	01396-2-2350
	登別美術園工サークル	野崎 信夫	若草小	050 登別市若草町1-1	01438-6-7513
	室蘭市教育研究会造形部	志賀 健一	水元小	050 室蘭市水元町5-1	0143-44-3311
	苫小牧造形研究会	片桐 勉	苫小牧東中	053 苫小牧市旭町1-7	0144-32-5231
	"	大月 猛	開成中	053 苫小牧市清水町2丁目9-2	0144-32-8278
連盟日高支部	谷口 明志	富川高	055 沙流郡門別町字富川町706	01456-2-0411	
道東	十勝造形サークル	横田 裕美	西上音更小	080 河東郡士幌町字上音更西3線	01564-5-3004
	帯広市教育研究会園工美術部会	本間 義祝	啓北小	080 帯広市西14条北7丁目3	0155-36-7754
	"	成瀬 登	大空小	080 帯広市大空町3丁目16	0155-48-7672
	釧路市造形教育研究会	稲船 正男	桜ヶ丘中	084 釧路市桜ヶ岡6丁目27-12	0154-92-0711
	"	岩田 広	景雲中	085 釧路市東川町16-1	0154-23-6191
オホーツク造形連盟	横田 勇吉	胡陵中長	093-01 紋別郡湧別町色露	01586-6-2463	
"	高橋 忠昭	中滑小頭	094 紋別市上滑町中滑40-1	01582-5-2234	
樺室造形教育連盟	清水 克美	標津中長	086-16 標津郡標津町標津1321	01538-2-2083	

第39回全道造形教育研究大会帯広・十勝大会役員名簿

大会長	園部 信二 (帯広市立光南小学校教頭)	石山 信子(帯広北栄小)
金井 秀男 (北海道造形連盟委員長)	高橋 元春 (帯広市立帯広小学校教頭)	渉外庶務部長 中西 堯昭(清水御影中)
大会副委員長	渡辺 嶺祥 (帯広市立清川中学校教頭)	渉外庶務次長
秋山 修正 (北海道造形連盟副委員長)		小島 弘文(帯広稲田小)
早弓 弘行 (北海道造形連盟副委員長)	大会運営委員長	田辺 泰夫(帯広五中)
川上 宏 (北海道造形連盟副委員長)	寺本 吉明(清水人舞小長)	丸谷 雄次(帯広一中)
太田 道次 (帯広市立大空小学校長)	大会副運営委員長	伊東 靖子(帯広光南小)
	横田 裕美(北中音更小)	和田 浩司(帯広開西小)
	宮沢 克忠(帯広六中)	太田 道代(足寄足寄中)
大会理事	大会事務局長	渉外庶務部
佐々木 理組 (北海道造形連盟事務局長)	成瀬 登(帯広大空小)	佐藤 泰子(帯広啓西小)
安達 大元 (十勝造形サークル顧問)	事務局次長	山上一 恵(帯広稲田小)
村田 暁之助 (元帯広市立大空小学校長)	岡 沼 淳一(帯広光南小)	安藤 和江(帯広稲田小)
加地 保良 (清水町立下佐幌小学校長)	森 厚夫(帯広三中)	杉森 博子(帯広開西小)
湯川 守 (足寄町立芽登小学校長)	佐藤 龍明(足寄上利別中)	船木 春雄(帯広東小)
小柳 恒 (新得町立富村牛小学校長)	出村 英和(芽室芽室小)	佐藤 晃一(芽室芽室中)
西川 忠義 (音更町立椋隔台小学校長)	斉藤 隆博(鹿追鹿追中)	黒田 正則(帯広二中)
小椋 武秋 (幕別町立糠内小学校長)	小野 豊子(帯広松葉保)	研究部長
富久尾 豊 (鹿追町立通明中学校長)	千葉 養子(音更共栄台幼)	本間 義視(帯広啓北小)
紺野 哲明 (清水町立美登小学校長)	関根 武茂(帯広大空小)	研究部次長
	新栄 モト(帯広大空小)	奥野 淳一(帯広四中)
	大会経理部長	守谷 通則(帯広一中)
	村上 俊彦(幕別札内中)	工藤 良三(帯広大空中)
	経理部次長	荒井 正春(上士幌 北居辺小)
	白木 和子(帯広大空小)	佐藤 久道(音更下音中)
	下坂 正之(音更共栄中)	研究部
	松浦 恵子(帯広若葉小)	柴田 真(帯広明星小)
		小山田 菊太郎(帯広花園小)

伊藤隆士(帯广大空小)
遠藤妙子(帯广大空小)
影山美香(帯広六中)
貝出嘉祥(帯広広陽小)
佐藤忠司(帯広川西小)
丸谷雄次(帯広一中)
斎藤卓三(池田池田中)
岡本真一(清水人舞小)
根岸邦昌(幕別札内中)
横田恭子(たんぼほ保)
山口かよ子(たんぼほ保)
大石潤智子(南保)
佐野ひとみ(北保)
米谷雅代(栄保)
泉谷美津枝(第一いづみ幼)
遠藤五月(第一いづみ幼)
杉崎珠美(共栄台幼)
細川恵子(葵南幼)

事業部長

小室 史(帯広清川中)

事業部次長

岡沼秀雄(帯広西陵中)
霜村英靖(帯広五中)
海富 隆(帯広八中)
本宮 豊(幕別白人中)
高橋正美(浦幌浦幌中)
中谷有逸(帯広柏葉高)
金子 章(豊頃社教委)

事業部

今村芳弘(帯広緑丘小)
遠藤 忠(帯広北栄小)
春日井政憲(帯広北栄小)
安藤静司(帯広北栄小)
三守宏明(帯広光南小)
野坂寿彦(帯広二中)

佐藤俊顕(帯広四中)
大越哲也(音更緑陽台小)
笠松英次(音更音更中)
坂本 裕(広尾広尾中)

会場部長

中村俊昭(帯広南町中)

会場部次長

田口丞二(帯广大空中)
太田理三郎(帯广大空小)
岩崎欣哉(池田高島中)
中谷茂弘(本別本別中)

会場部

黒田江美子(帯広光南小)
杉山明夫(帯広川西小)
長谷川和元(帯広稲田小)
松巴宏一(帯広若葉小)
成田 隆(帯广大正小)
佐藤満雄(帯広栄小)
今西 忍(帯広東小)
村中静夫(帯広広陽小)
伊沢隆司(帯広広野小)
河瀬篤弘(帯広啓西小)
松山宗彦(帯広啓西小)
丸藤忠造(帯広啓西小)
高島真知子(帯広啓西小)
鎌水 徹(帯広稲田小)
神 史明(帯広南町中)
佐藤弘法(帯広西陵中)
中山徳一郎(帯広川西中)
高田健治(清水清水中)
有田陽一(池田高島中)

記録部長

山口雅子(帯広柏小)

記録部次長

福井吉三郎(帯広稲田小)
大石勉也(清水御影小)
西山千晶(音更柳町小)

記録部

三熊陽子(帯広光南小)
石塚慎子(帯広西小)
二瓶千鶴(帯広啓西小)
藤崎みよ子(帯広稲田小)
宮上洋子(帯広啓西小)
高橋秋子(帯広広陽小)
山中みどり(帯広広陽小)
堀井ともみ(帯広啓西小)
西川みゆり(帯広開西小)
久富敏宏(帯広稲田小)
酒井一彦(帯広稲田小)
二瓶源司(帯広西小)
小西三雄(帯広八千代中)
加瀬谷真理(帯広西陵中)
小泉圭一(音更緑南中)
柳澤由枝(養護学校)
鈴木幸子(道立盲学校)
西川久美子(道立盲学校)

＝ 帯広市立大空小学校（会場校）職員 ＝

校 長	太 田 道 次				
教 頭	佐 藤 光 男				
教 職 員	木 村 健 一	細 木 あゆみ	幾 島 真理子	桒 田 正 人	
	鳥 羽 誠 市	伊 藤 隆 士	清 田 哲 也	後 藤 優 子	
	白 木 和 子	関 根 武 茂	片 倉 裕 孝	島 戸 春 夫	
	西 本 真 二 郎	近 藤 映 子	梅 津 和 行	山 本 裕	
	成 瀬 登	水 野 守	遠 藤 妙 子	佐 藤 喜 一 郎	
	伊 東 俊 明	武 石 太	羽 賀 正 典	中 野 幸 夕	
	森 本 聡	藤 崎 健 一	大 林 慶 宝	石 谷 正 子	
	新 栄 モ ト	清 水 将 義	太 田 理 三 郎		
	窪 井 佳 純	木 村 頼	今 井 貢		
	平 田 弘	小 矢 邦 晴	棚 瀬 真 紀 子		
	小 倉 賢 三	河 合 雄 示	西 尾 恵 子		

大空小学校 P T A 協力役員

P T A 会 長 柴 前 田 徳 宝

浅 井 実 栄 子	澤 田 真 弓	前 浜 容 子
伊 豆 倉 愛 子	柴 田 豊	美 濃 恵 子
井 上 優 紀 子	鈴 木 静 江	三 好 美 幸
大 泉 恵 美 子	田 所 悦 子	宮 部 美 栄 子
小 川 規 子	高 倉 美 恵 子	官 前 か お り
小 川 美 恵 子	高 坂 寿 子	森 川 宏 子
加 藤 扶 美 子	高 田 美 知 子	森 口 由 美 子
川 添 知 可 子	高 橋 ち よ 子	山 田 房 子
菊 地 勝 子	立 崎 則 男	米 原 良 子
北 村 良 子	橋 山 ま り 子	
久 保 理 恵 子	野 原 裕 子	
小 林 文 子	平 尾 春 子	
後 藤 愛 子	広 瀬 真 知 子	
五 明 ひ ろ 枝	福 田 美 紀 子	
境 悦 子	古 川 亮 子	
佐 藤 真 理 子	細 川 美 興 子	

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的
本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興をはかるをもって目的とする。
2. 事業
本連盟は、目的を達するためつぎの事業を行う。
 1. 研究会、講習会、展覧会等の開催及び後援
 2. 造形教育に関する教科書、教材、教具等の研究
 3. 機関誌の刊行
 4. 他の造形教育団体との連絡提携
 5. その他造形教育振興上必要な事項
3. 会 員
正 会 員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの
4. 組 織
サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。
本 部 本連盟の本部は札幌におく。
5. 構成及び任務
 1. 役 員 委 員 長 1 名 本連盟を代表する。
副委員長 若干名 委員長を補佐する。
会計監査 2 名 会計の監査をする。
 2. 委 員 地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。
常任委員 若 干 名 本連盟の運営に当る。
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる。
6. 選 任
○委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。 ○常任委員は委員長の委嘱による。
○地区委員は地区サークルで選出する。 ○顧問は委員総会において委嘱する。
7. 任 期
役員及び委員の任期は1カ年とする。但し重任を妨げない。
8. 会 議
○総 会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。
○委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。
役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。
○常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。
9. 会 計
本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する。
会費 正会員は、1人年額1,000円を納入するものとする。サークルは、年額4,000円を本部に納入するものとする。
10. 事 務 局
○事務局は事務局長在勤の学校におく。
○事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。
○事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする。
11. 年 度 本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。
12. 規約の改廃 本規約の改廃は委員総会の議決による（昭和62年5月3日改定）

第39回全道造形教育研究大会

— 帯広・十勝大会 —

発 行 全道造形教育連盟
発 行 者 大会運営委員長 寺 本 吉 明
大会事務局 帯広市立大空小学校
TEL 0155-48-8358
発 行 日 平成元年7月27日
印 刷 所 ソーゴー印刷株式会社
帯広市西16条北1丁目25番地
TEL 0155-34-1281



霜村英靖

